

基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる				
成果指標	「幸せな暮らしとを感じる人」の割合	本年度 目標値	74.0%	現状値	87.4%
成果指標		本年度 目標値		現状値	

	実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
第1四半期	成果指標「幸福感」については、平成28年度は 85.8%となった。アンケートでは「健康状態」「経済的安定」「家族・友人関係」等を判断材料とされた割合が高い結果となった。 平成29年度第1四半期の取り組み状況は【政策1 住みたい・住み続けたい環境の充実】では4月から道の駅に移住コンシェルジュを2名配置したが、周知不足のためか移住相談件数は役場に比べて少なかった。空き家バンクでは活用可能な69件の所有者にアンケートを送付した。子育て支援施設では設計を発注した。 【政策2 住みよい持続可能なまじこの創生】について、里山整備では本年度整備予定箇所の現地確認を行った。自然エネルギー補助金関係では昨年度の周知不足を踏まえて町HPや広報・お知らせ版に掲載や窓口にチラシを用意した。ごみについても同様に減量化への広報活動を行うとともに小型家電や廃食用油の回収を進めた。 【政策3 健康・長寿まじこづくりの推進】では4月から健康ポイント事業を開始し、広報配布時に事業内容のチラシを配布、健診結果説明時にもPRした。第1四半期の申請者は 137 名。道の駅では、地元農産物の販売や食の提供を行った。また、チャレンジクラブの運営についても随時支援を行った。 【政策4 だれもがいきいきと生活できる環境の充実】では4月に新たに2ヶ所の高齢者サロンがオープンし、6月末のサロン・予防教室参加人数は293名になった。七井小・七井中では益子特別支援学校と交流活動を行った。 【政策5 地域の安全・安心の強化】ではスクールガード人数は毎年減少傾向にあり、新規加入者の減少・高齢化という課題が浮き彫りになった。1～5月までの交通事故発生件数は7件であり人口1万人当たりの発生件数で県内ワースト24位だった。	【政策1】では、休日における道の駅での移住相談の周知を図るとともに、空き家バンク登録へ向けて所有者の同意が得られるよう努める。子育て支援施設では改修工事を発注するとともに、開設に向け備品や運営について検討する。 【政策2】について、里山整備では整備箇所の発注や来年度整備箇所の選定、地元との合意形成に努める。自然エネルギーでは引き続き補助制度の浸透を図る。家庭用生ゴミの搬入量減少についてはアンケートを実施し、原因を探り対策について研究する。 【政策3】では、健康ポイント事業の周知や、ロコモティブシンドロームの講演会を開催して、運動習慣の推進や年に1回は健康診査を受診するよう啓発活動を行う。益子産野菜を使った健康レシピコンテストを開催し、家庭で野菜を使った料理が定着するようPRする。チャレンジクラブでは7/9に町体育館で芳賀地区スポーツ交流会を開催したが、今後も会員増につながるよう広報やイベントを計画する。 【政策4】では、新規にオープンしたサロンも含め安定した運営ができるよう支援するとともに、新たなサロン開設に向け働きかけを行う。今年度は第7期高齢者総合福祉計画策定の年なので策定に向け策定委員の意見を集約する。生涯学習課では引き続き「いきいき講座」を支援する。 【政策5】では、今後とも交通事故減少に向け、安全教室の開催や環境整備に努める。また防災に対する意識が向上するよう講習会や防災訓練を行う。見守り活動として青色パトロールを行うとともに、スクールガードの確保に向け募集を行う。

基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる				
成果指標	「幸せな暮らしとを感じる人」の割合	本年度 目標値	74.0%	現状値	87.4%
成果指標		本年度 目標値		現状値	

	実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
第2四半期	【政策1 住みたい・住み続けたい環境の充実】では1月から9月までの社会動態は83人の転出超過であり、出生者数は80人、死亡者数は233人だった。移住定住関係では相談件数、奨励金交付件数とも第1四半期を上回った。子育て支援施設では設計が終了し、子育て応援手当では対象者に申請書を送付した。 【政策2 住みよい持続可能なましの創生】について、里山整備では前沢町有林の整備を発注。ひまわり祭は予想以上の来場者だった。ごみ回収では昨年同様に減量化への広報活動を行うとともに、エコ土曜日を行い資源物の回収を進めた。 【政策3 健康・長寿ましくづくりの推進】では、9月末の健康ポイント事業申請者は231名、健康サポーターは45名の登録があった。道の駅では、地元農産物の販売や季節に応じた食の提供を行った。また、チャレンジクラブの運営についても随時支援を行った。 【政策4 だれもがいきいきと生活できる環境の充実】では介護予防教室・高齢者サロン参加者は順調に増加しており、9月末の参加実人数は308名。次期高齢者総合福祉計画の策定委員会を2回開催した。デマンドタクシーの利用者も前年同期より増加した。各小中学校では運動会に高齢者を招待し世代間の交流を図った。 【政策5 地域の安全・安心の強化】では1月から8月までの刑法犯発生件数は69件。「車上ねらい」が増加している。交通事故発生件数は12件だが、人口1万人当たりの発生件数で25市町中県内ワースト24位、高齢者の発生件数もワースト24位だった。	【政策1】では、町民検討委員の意見等を反映させて移住定住計画を策定するとともに、積極的に情報発信を行う。子育て支援施設では工事を発注するとともに、開設に向け備品や運営について検討する。婚活ではイベント内容等について検討する。 【政策2】について、里山整備では来年度整備箇所の選定、町有林遊歩道延長の検討を行う。花のまちではコスモス祭を開催する。自然エネルギーでは引き続き町民への補助制度の浸透を図る。家庭用生ゴミの搬入量減少についてはアンケートを実施し、原因を探り対策を図る。 【政策3】では、健康ポイント事業のチャレンジクラブとの連携を検討したりロコモティブシンドロームの講演会を開催して、運動習慣の推進や生活習慣病予防の啓発を図る。益子産野菜を使った健康レシピコンテストを開催し、野菜を使った料理が普及するようPRする。 【政策4】では、高齢者サロンではボランティアも含め安定した運営ができるよう支援を行う。高齢者総合福祉計画については策定に向け委員の意見を集約する。生涯学習課では引き続き高齢者の「いきいき講座」を支援する。 【政策5】では、今後とも交通事故減少に向け、安全教室の開催や危険箇所の把握や環境整備に努め、高齢者の免許返納を促す。防災無線等により犯罪予防の注意喚起や防災に対する意識が向上するよう例年どおり防災訓練を行う。見守り活動として青色パトロールを行うとともに、スクールガードの確保に向け募集を行う。

基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる				
成果指標	「幸せな暮らしとを感じる人」の割合	本年度 目標値	74.0%	現状値	87.4%
成果指標		本年度 目標値		現状値	

	実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
第3 四半期	【政策 1 住みたい・住み続けたい環境の充実】では 1 月から 12 月までの社会動態は目標 10 人の転出超過に対し 120 人の転出超過、出生数は目標 179 人に対し 109 人だった。社会動態については昨年より若干回復したが、出生数は約 50 人減少してしまった。移住定住関係では第 2 四半期と同程度の相談件数、奨励金交付件数があった。子育て支援施設は 11 月より改修工事を行っている。12 月末の子育て応援手当の支給率はほぼ前年と同じ 90.09% だった。 【政策 2 住みよい持続可能なましの創生】について、里山整備では今年度整備予定箇所の発注を終了。コスモス祭は悪天候により来場者は 13,000 人程だった。ごみ回収では減少している生ゴミ処理事業についてアンケートを実施。また、エコ土曜日を毎月実施し資源物の回収を進めた。 【政策 3 健康・長寿ましくづくりの推進】では、12 月末の健康ポイント事業申請者は 326 名で第 2 四半期より 95 名増加。チャレンジクラブの会員は 12 月末で 609 名であり第 2 四半期より 50 名程増加。また、健康レシピコンテストを行い入賞レシピを健康まつりで試食、普及啓発を図った。 【政策 4 だれもがいきいきと生活できる環境の充実】では引き続き介護予防教室・高齢者サロンを開設。次期高齢者総合福祉計画の策定委員会を 2 回開催した。デマンドタクシーの利用者も前年同期より増加した。各小中学校では総合的な学習で高齢者や特別支援学校との交流を行った。 【政策 5 地域の安全・安心の強化】では通学路安全対策推進協議会を開催し危険箇所について関係機関の情報共有や対策について協議した。刑法犯、交通事故発生件数とも前年同期より若干増加した。	【政策 1】では、移住定住のお試し住宅を平成 30 年 1 月からオープン、空き家バンクも含め移住定住に関する情報発信の拡充を図る。子育て支援施設では開設に向け備品や運営について準備を進める。婚活ではイベント開催当初から参加者が集まらない状態が続いているので内容等について見直しも含め検討を行う。また農政課と 2 課で行っていた婚活事業を 4 月から健康福祉課へ統一。 【政策 2】について、里山整備では、県民税事業の継続が決定したので来年度整備箇所の選定、地元の合意形成を図る。自然エネルギーでは特に太陽熱利用システム補助金について町民への補助制度の浸透を図る。廃プラ回収事業については試行実施していたが、経費や CO2 排出量の観点から一時休止して検討することとした。 【政策 3】では、今後も予防教室・運動教室等で健康ポイント事業の普及を図る。健康診査の受診を活用して運動習慣や生活習慣病予防への意識改革や啓発を図る。チャレンジクラブは認知度アップのため引き続き広報活動を行う。 【政策 4】では、サロンでは安定した運営ができるよう各サロンのボランティア同士の情報交換や勉強会を行う。高齢者総合福祉計画については策定に向け内容の精査を行い、益子町に適合する計画を策定する。「いきいき講座」は講座のメニューが固定化の傾向があるので、新規講師の開拓を図る。 【政策 5】では今後も防災無線や交通安全教室等により犯罪予防や交通安全の注意喚起に努める。見守り活動として引き続き青色パトロールを行うとともに、スクールガードの確保に向け募集を行う。

基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる				
成果指標	「幸せな暮らしとを感じる人」の割合	本年度 目標値	74.0%	現状値	87.4%
成果指標		本年度 目標値		現状値	

	実施内容・成果の総括	次年度の方針
本年度総括 (第4四半期分も含む)	【政策1 住みたい・住み続けたい環境の充実】では社会動態は本年度の目標値、10 人の転出超過に対し120 人の転出超過、出生数は目標値179 人に対し109 人だった。移住定住関係では1 年間で126 件の相談件数、49 件の奨励金交付があり、対象世帯員数は176 人だった。子育て支援施設は改修工事が完了した。子育て応援手当の支給率は前年より0.6%アップの95.4%だった。	【政策1】では、移住定住については町が目指すターゲット層に沿った事業・情報発信を行う。子育て支援施設では開設に向け備品や運営について準備を進める。婚活ではイベント開催について社協や商工会と相談しながら内容検討を行う。
	【政策2 住みよい持続可能なましこの創生】について、里山整備は目標値32 箇所に対し33 箇所を整備。エネルギー需給率は目標を10%上回る25.9%になった。ごみ回収では、エコ土曜日が周知され資源物や小型家電・廃油等の回収が増加したが、家庭系の生ゴミ堆肥化排出量は減少傾向にある。	【政策2】について、里山整備では、30 年度整備予定箇所の地元の合意形成を図る。自然エネルギーでは特にバイオマスストーブ、太陽熱利用システム補助金について町民への補助制度の浸透を図る。生ゴミについては堆肥化事業だけでなくコンポストや生ゴミ処理機の利用についても周知を図り、燃えるゴミへの混入減少を図る。
	【政策3 健康・長寿ましこづくりの推進】では、1 年間の健康ポイント事業申請者は385 名に達し、特にウォーキングポイントは「励みになる。」との声も聞かれた。また体組成計測定者は延500 人程に及び、健康志向の高まりの表れとを感じる。	【政策3】では、チャレンジクラブやスクールガード事業との連携を図り、健康ポイント事業のより一層の普及を図る。また毎月第3 火曜日を「健康デー」とし、保健センターにおいて体組成計測定や個別栄養相談等を実施し、町民の健康づくりサポート体制の強化を図る。
	【政策4 だれもがいきいきと生活できる環境の充実】では介護予防教室・高齢者サロン293 人が参加(目標値258 人)。次期高齢者総合福祉計画策定委員会において今後3 年間の介護保険料は据え置きとした。デマンドタクシーの利用者も年々増加している。	【政策4】では、サロンでは引き続き安定した運営ができるよう各サロンのボランティア同士の情報交換や勉強会を行う。高齢者総合福祉計画については策定した計画が実施できるよう、関係各機関との連携を図る。
	【政策5 地域の安全・安心の強化】では刑法犯目標値69 件に対し88 件で昨年より6 件減少、交通事故目標値20 件に対し23 件であり昨年より7 件増加。交通事故死については平成25 年8 月より死亡者0 が続いている。	【政策5】では今後も防災無線や交通安全教室等により犯罪予防や交通安全の注意喚起に努める。見守り活動として引き続き青色パトロールを行うとともに、スクールガードの確保に向けスクールガードに健康ポイントを付与する。

		課局名	企画課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	住みたい住み続けたい環境の充実		
施策	選ばれる町への転換	進捗状況	100%		
KPI	人口の社会動態(暦年:1~12月)	本年度目標値	▲10人	現状値	▲120人(1~12月)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月	①(仮)移住定住計画の骨格案の作成 ②移住コンシェルジュによる道の駅での移住定住サポート業務		①(仮)移住定住計画の骨格案の検討 ②コンシェルジュの2名配置(正職員) 相談【企:6件】【道:4件】 ③奨励金 【交付:5件】 ④⑤自治会長空き家調査183件の職員による外観調査を実施	
	5月	③奨励金申請受付 ④お試し住宅可能物件の調査 ⑤空き家バンク登録可能物件の調査、体験ツアーの検討		①(仮)移住定住計画の骨格案の検討 ②相談【企:12件】【道:3件】 ③奨励金 【交付:1件】 ④⑤外観調査結果集約、活用可能物件所有者へのアンケート(案)作成	
	6月	⑥町民活動支援センターの開設に向けた検討		①(仮)移住定住計画の骨格案の検討、宇都宮大学との連携協議 ②相談【企:4件】【道:0件】、都内相談会:40件、ブログシステム打合 ③奨励金 【交付:3件】 ④⑤活用可能物件所有者へのアンケート送付(69件) ⑥支援センター関係課・社会福祉協議会との打ち合わせ(6/28)	
	7月	①(仮)移住定住計画の検討委員会の実施 ②移住コンシェルジュによる道の駅での移住定住サポート業務		①(仮)移住定住計画の骨格案の検討、町長打ち合わせ ②相談【企:8件】【道:2件】、ブログシステムの構築 ③奨励金 【交付:4件】 ④⑤活用可能物件所有者へのアンケート集計(回答:25件/69件)、バンク【登録:4件】 ⑥町民活動団体へのアンケート作成、各課調整、送付(33団体)	
	8月	③奨励金申請受付 ④お試し住宅可能物件の交渉・改修工事に向けた準備 ⑤空き家バンク登録可能物件の交渉、登録に向けた宅建業者との連携		①(仮)移住定住計画の骨格案の決定、委員内諾 ②相談【企:5件】【道:5件】 都内相談会:3件 ブログシステム完成 ③奨励金 【交付:2件】 ④バンク【登録:0件】【成約:1件】、水道閉栓情報の提供依頼 ⑤町民活動団体へのアンケート回収(20団体)、集計 ⑥8/31町民活動センター県外視察(つくば市等、総務・企画・生学)	
	9月	⑥町民活動支援センターの開設に向けた検討		①移住定住計画委員会 第1回9/27開催 ②相談【企:9件】【道:2件】、都内相談会7件、ブログシステム稼働 ③奨励金 【交付:7件】 ④お試し住宅対象物件所有者と交渉 ⑤バンク【登録:7件】【成約:2件】、水道閉栓情報の精査 ⑥町民活動団体へのアンケート報告書作成	
	10月	①(仮)移住定住計画の検討委員会の実施 ②移住コンシェルジュによる道の駅での移住定住サポート業務 ③奨励金申請受付		①移住定住計画委員会 第2回10/25開催 ②相談【企:7件】【道:2件】 ③奨励金 【交付:5件】 ④お試し住宅対象物件所有者と交渉、契約書案提示 ⑤バンク【登録:0件】【成約:0件】 職員による空き家調査:143件、意向調査:返答7件/送付40件	
	11月	④お試し住宅物件の改修工事 ⑤空き家バンク登録可能物件の交渉、登録に向けた宅建業者との連携		①移住定住計画委員会 第3回11/15開催 ②相談【企:0件】【道:2件】 ③奨励金 【交付:3件】 ④お試し住宅対象物件所有者と契約。改修工事開始。 ⑤バンク【登録:1件】【成約:0件】 空き家管理システム導入検討	
	12月	⑥町民活動支援センターの開設に向けた検討		①移住定住計画委員会 第4回12/13開催 ②相談【企:3件】【道:2件】 ③奨励金 【交付:5件】 ④お試し住宅改修工事終了。必要物品等調達 ⑤バンク【登録:1件】【成約:2件】 空き家管理システム打合せ	
	1月	①(仮)移住定住計画の検討委員会の実施 ②移住コンシェルジュによる道の駅での移住定住サポート業務		②相談【企:11件】【道:0件】 都内相談会(1/13:4件、1/21:9件) 冊子納品・近隣事業所等送付 ③奨励金 【交付:3件】 ④お試し住宅貸出開始(1/6~)。予約1件(入居日2月) ⑤バンク【登録:0件】【成約:2件】 空き家管理システム仕様決定	
	2月	③奨励金申請受付 ④お試し住宅事業の運用 ⑤空き家バンク登録可能物件の交渉、登録に向けた宅建業者との連携		①移住定住計画委員会 第5回2/14開催 ②相談【企:3件】【道:3件】 ③奨励金 【交付:6件】 ④お試し住宅利用1件(2人、2/10~3/25) 体験77-(2/25:4組5人) ⑤バンク【登録:1件】【成約:1件】 空き家管理システム納品	
	3月	⑥町民活動支援センターの開設に向けた検討		①移住定住計画委員会 第6回3/14開催 ②相談【企:4件】【道:2件】 ③奨励金 【交付:5件】 ④お試し住宅利用(前月からの引き続き)、体験77-(3/11:3組9人) ⑤バンク【登録:1件】【成約:1件】 ⑥3/27町民活動支援関係課(総務・企画・健康福祉・生涯学習)打合	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	1～6月の社会増減：▲62人（転入：334人、転出：396人） ①今年度末までの策定を目途としているため、宇都宮大学との相互友好協力協定に基づいた連携により、着地点・前提条件等を含めた骨格案を早急に固める必要がある。 ②四半期における相談件数は昨年度より多いもの（前年同期：13件）、道の駅での相談件数は少ないため、道の駅でも行っている旨の周知が不足している。 ④⑤お試し住宅の選定・空き家バンクへの登録に向けて所有者への意向調査は必要であるが、活用意思がないとされた後の個別の対応を含め、空き家バンク登録にむけた次の取組を検討しなければならない。 ⑥6月の打ち合わせ会により、町民活動団体へのアンケートを行いその結果分析後の協議により町民活動支援の主担当課を決定することとしたため、今後のスケジュールについて再検討を行わなければならない。	①宇都宮大学と連携し、骨格案の決定、検討委員会設置要綱の制定、委員の選任のほか、第1回目の委員会を第2四半期中に行う。 ②新聞、ワンストップサイト、SNS等で道の駅でのサポートセンター機能についての周知を図る。 ④⑤アンケート結果を集計し、お試し住宅・空き家バンク登録候補物件の選定及び交渉を行う。 ⑥アンケート実施・分析を行い、関係課・社会福祉協議会と連携して町民活動支援に向けた検討を行っていく。
第2四半期	1～9月の社会増減：▲83人（転入：466人、転出：549人） ①町民目線による移住定住の取組を具体化するための委員会であることから、意見・提案が出やすい委員会運営に配慮する必要がある。 ②効果的な情報発信手段として導入したワンストップサイト内ブログシステムを有効活用し、積極的な情報発信が必要である。 ④お試し住宅について、できるだけ早期に運用開始ができるよう制度設計・所有者との手続きを進める必要がある。 ⑤空き家バンクについて、水道の閉栓情報からの空き家確認のほか、成約事例の紹介などを通じ、登録物件数確保・制度周知を図る必要がある。 ⑥町民活動団体アンケート結果、支援センター先進地視察を踏まえ、今後の検討事項・スケジュールを具体化しなければならない。	①検討委員・ファシリテーター・事務局がともに目標・着地点を明確にして計画策定を行っていく。 ②移住定住に関する情報、本町での暮らしと活躍する人の取材等を行い、積極的に情報発信を行う。 ④29年11月から運用開始ができるよう、事前周知のほか、対象物件所有者との交渉、改修工事、備品等発注を行っていく。 ⑤水道閉栓情報からの空き家調査の実施のほか、広報ましこ等を通じ所有者をはじめとした町民への周知・移住定住への意識づけを行っていく。 ⑥アンケート結果を踏まえ、町民活動支援策の具体的な検討をに向け関係課・社会福祉協議会と連携していく。
第3四半期	1～12月の社会増減：▲120人（転入：576人、転出：696人） ①町民目線による移住定住の取組を具体化するための委員会であることから、意見・提案が出やすい委員会運営に配慮する必要がある。 ②ブログシステムを有効活用し、積極的な情報発信が必要である。 ④お試し住宅について、平成30年1月にオープンすることとしたが、稼働率を上げる方策が必要となってくる。 ⑤空き家バンクについて、一般住宅については登録から成約までのサイクルが短い、登録申請物件が伸び悩んでいる。 ⑥支援センター設立について、人と人とのつながりによる「地域づくり」を進めていくためとしていることから、本施策のKPIに直結しがたい。	①検討委員・ファシリテーター・事務局がともに目標・着地点を明確にして計画策定を行っていく。 ②移住定住に関する情報、本町での暮らしと活躍する人の取材等を行い、積極的に情報発信を行う。 ④移住フェア・相談会、町ホームページ、フェイスブック等を活用した町外向けの発信のほか、町内向けにも発信し、情報拡散を行っていく。 ⑤広報ましこ・町ホームページ等を活用し、成約事例等を交え、制度の周知を図る。 ⑥具体的な行動の目的に合致する施策への移し替えを検討する。
第4四半期	1～12月の社会増減：▲120人（転入：576人、転出：696人） ①次年度以降は、本委員会での検討を踏まえた推進計画に沿った事業展開を図る必要がある。 ②ブログシステムを有効活用し、積極的な情報発信が必要である。相談件数【企：72件】【道：27件】【都内：63件】【ツアー：7件】 ③交付金【交付49件、対象世帯員数176人】 ④お試し住宅の稼働率を上げる方策が必要となってくる。 ⑤空き家バンクについて、住宅は登録から成約までのサイクルが短い、登録申請物件が伸び悩んでいる。【登録：15件】【成約：9件】 ⑥町民活動団体へのアンケート結果を尊重し、また議会でも整備に関して言及しているため、開設する方向で検討しなければならない。本具体的行動は、人と人とのつながりによる「地域づくり」を進めていくためとしていることから、本施策のKPIに直結しがたい。	①移住推進事業については、推進計画に沿った事業展開を図る。 ②推進計画で設定したターゲットに沿った移住定住に関する情報、本町での暮らしと活躍する人の取材等を行い、積極的に情報発信を行う。 ④推進計画で設定したターゲットに沿った移住フェア・相談会、町ホームページ、フェイスブック等を活用した町外向けの発信のほか、町内向けにも発信し、情報拡散を行っていく。 ⑤固定資産税納税通知書発送・広報ましこ・町ホームページ等を活用し、成約事例等を交え、制度の周知を図る。 ⑥支援センターは開設する方向であるが今後の施設整備の状況を勘案していくこと、支援主務課については開設に併せて検討していく。具体的な行動の目的に合致する政策である経営体「町民主体のまちづくり」へ手続きを経たうえで移替えを行い、推進していく。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降への方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	各取組とも第2四半期の方針・改善点を踏まえ実施していく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・1委員 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 KPI実績値が年度目標値と大きくかい離しているため、大々的な対策を講じる必要があるのではないかと。	①②④本年度に町民代表者等と策定した「益子町移住・定住推進計画」に基づき、ターゲット（第1ターゲット：近隣地域事業所に勤務する子育て世代、第2ターゲットUIターン希望の若者）に向けた事業展開、情報発信等を行っていく。また、今後の移住定住対策を含めた町政全般の施策に資するため、転出・転入の理由等を把握するためのアンケートを実施する。 ③移住定住奨励金については、これまで通り、税務課ほか関係者と連携を図っていく。 ⑤これまでの移住相談及び移住定住奨励金対象者アンケート等では、新築するための土地を探している旨の内容があることから、次年度においては空き地バンクの開設に向けた取組も展開する。 ⑥町民活動の支援強化については、支援センターの設置に限らず、具体的な支援に関するソフト事業を含め、関係課（総務課・健康福祉課・生涯学習課）と連携し、新しい公共の担い手育成を図るとともに、地域創生コンテスト等を通して地域づくりの機運を高めていく。また、本具体的行動にあっては、経営体分野（政策：町民主体のまちづくり、施策：地域の「ちから」の結束への支援）において実施していく。
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	健康福祉課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	住みたい住み続けたい環境の充実		
施策	選ばれる町への転換	進捗状況	100%		
KPI	人口の社会動態（暦年：1～12月）	本年度目標値	▲10人	現状値	▲120人(1～12月)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主 な 取 組 内 容	4月			特になし	
	5月	⑥町民活動支援センターについて情報を収集する。		特になし	
	6月			6/16 総務部長・企画課と打ち合わせ 今までの経過について説明。 6/28 総務部長・民生部長・企画課・総務課・生涯学習課との打ち合わせ 町民活動の確認、アンケートの実施、スケジュールについて検討。 アンケートを企画課で7月に行うことになった。	
	7月			特になし	
	8月	⑥町民活動支援センターについて情報を収集する。		特になし	
	9月			特になし	
	10月			特になし	
	11月	⑥町民活動支援センターについて情報を収集する。		特になし	
	12月			特になし	
	1月			特になし	
	2月	⑥町民活動支援センターについて情報を収集する。		特になし	
	3月			3/27 関係各課で打ち合わせ(総務部長、民生部長、総務課、企画課、健康福祉課、生涯学習課) 既存の施設での設置は難しいと考え、新たな施設の一部として検討していく。	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点
第1四半期	アンケートを行うことになり、取り組みの必要性を判断できる材料が増えることになったが、町民活動支援センターが支援する活動を定義することの検討を進める必要がある。	アンケートの結果により、関係各課と協力してこれからの進め方の判断をする。
第2四半期	企画課でアンケートを行っており、その結果を検証して次の作業に移る。	アンケートの結果により、関係各課と協力してこれからの進め方の判断をする。
第3四半期	第2四半期から特に動きがない。	関係各課と協力してこれからの進め方の判断をする。
第4四半期	アンケートの内容や関係課との協議内容を踏まえつつ、他事業との連携も検討していく。	関係各課と協力してこれからの進め方の判断をする。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	関係各課と連携し、引き続き検討していく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	関係各課と連携し、引き続き検討していく。
	総括（第4四半期も含む）		

課局名		観光商工課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	住みたい住み続けたい環境の充実	
施策	選ばれる町への転換	進捗状況	100%	
KPI	人口の社会動態（暦年：1～12月）	本年度目標値	▲10人	現状値 ▲120人(1～12月)
KPI		本年度目標値		現状値
KPI		本年度目標値		現状値
①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果		
主 な 取 組 内 容	4月	②月3回、道の駅に求人情報紙を設置。		
	5月	①②移住コンシェルジュと連携をとりながら、就職や起業に関する情報を希望者へ提供する。	②月3回、道の駅に求人情報紙を設置するとともに、求人情報紙をPDF化し、町HPへ最新情報を掲載。	
	6月		②コンシェルジュから連絡により起業に関する相談（1件）受付。 ②月3回、道の駅に求人情報紙を設置するとともに、求人情報紙をPDF化し、町HPへ最新情報を掲載。	
	7月		②月3回、道の駅に求人情報紙を設置するとともに、求人情報紙をPDF化し、町HPへ最新情報を掲載。	
	8月	①②移住コンシェルジュと連携をとりながら、就職や起業に関する情報を希望者へ提供する。 ③空き家バンク（店舗）の状況について、関係課との情報共有	②月3回、道の駅に求人情報紙を設置するとともに、求人情報紙をPDF化し、町HPへ最新情報を掲載。	
	9月		①第1回移住・定住推進計画検討委員会 9/27 ②月3回、道の駅に求人情報紙を設置するとともに、求人情報紙をPDF化し、町HPへ最新情報を掲載。 ③栃木県空き店舗を活用した創業支援対象の店舗として県へ認定申請 4件	
	10月		①第2回移住・定住推進計画検討委員会 10/25 ②月3回、道の駅・役場・中央公民館・改善センター・あぐり館に求人情報紙を設置するとともに、求人情報紙をPDF化し、町HPへ最新情報を掲載。 町HPに、求人情報掲載についての記事をフェイスブックへ投稿。	
	11月	①②移住コンシェルジュと連携をとりながら、就職や起業に関する情報を希望者へ提供する。 ③空き家バンク（店舗）の状況について、関係課との情報共有	①第3回移住・定住推進計画検討委員会 11/15 ②月3回、道の駅・役場・中央公民館・改善センター・あぐり館に求人情報紙を設置するとともに、求人情報紙をPDF化し、町HPへ最新情報を掲載。	
	12月		①第4回移住・定住推進計画検討委員会 12/13 ②月4回、道の駅・役場・中央公民館・改善センター・あぐり館に求人 情報紙を設置するとともに、求人情報紙をPDF化し、町HPへ最新情報を掲載。	
	1月		②月4回、道の駅・役場・中央公民館・改善センター・あぐり館に求人 情報紙を設置するとともに、求人情報紙をPDF化し、町HPへ最新情報を掲載。	
	2月	①②移住コンシェルジュと連携をとりながら、就職や起業に関する情報を希望者へ提供する。 ③空き家バンク（店舗）の状況について、関係課との情報共有	①第5回移住・定住推進計画検討委員会 2/14 ②月4回、道の駅・役場・中央公民館・改善センター・あぐり館に求人 情報紙を設置するとともに、求人情報紙をPDF化し、町HPへ最新情報を掲載。	
	3月		①第6回移住・定住推進計画検討委員会 3/14 ①起業支援補助金交付要綱改正による若年者への支援充実 ②月4回、道の駅・役場・中央公民館・改善センター・あぐり館に求人 情報紙を設置するとともに、求人情報紙をPDF化し、町HPへ最新情報を掲載。 ③空き店舗所有者に、空き店舗登録するよう連絡。	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	①②道の駅にコンシェルジュが配置され、そこで受けた相談内容は、速やかに報告されており、役場から相談者に詳しい説明をする際に時間の短縮になっている。 ②求人情報紙を道の駅に配置したり、PDF化して町HPで閲覧可能にしたが、情報紙の残部数や閲覧数からみると、設置場所やHP閲覧等の周知が不足している。	①②コンシェルジュとの情報交換やハローワークとの連携方法について検討。 ②求人情報紙の設置場所及びHP掲載の周知。 ⑤関係課との情報共有を図る。
第2四半期	①第1回検討委員会が開催されたことから、関係課と連携し推進する必要がある。 ②求人情報紙を道の駅に配置したり、PDF化して町HPで閲覧可能にしたが、情報紙の残部数や閲覧数からみると、設置場所やHP閲覧等の周知が不足している。 ③県が登録が認めると、出店希望者の募集を県でも実施することになり、町を越えたマッチングが可能となった。	①②コンシェルジュとの情報交換やハローワークとの連携方法について検討。 ②役場、道の駅に求人情報を置いているが、他の施設にも設置するとともに、町HPへの掲載およびハローワークインターネットサービスへのリンクについての周知。 ⑤関係機関との情報共有を図る。
第3四半期	①若年者が、移住やUターンできるような情報提供が必要である。 ②求人情報掲載の記事を、町フェイスブックで周知したが、閲覧数が伸びていない。	①②若年者への情報提供方法について検討。 ②町HPへの掲載及びハローワークインターネットサービスへのリンクについての周知方法の検討。 ⑤関係機関との情報共有を図る。
第4四半期	①起業支援補助金交付要綱を改正し、40歳未満が起業する場合、補助額を厚くすることにより、若年移住者等が充実した支援を受けられるようにした。また、創業に必要な研修の受講者へ補助額加算を導入するなど一律的な支援から効果的な支援ができるようにした。 ⑤新規空き店舗所有者に、町だけでなく県の創業支援対象店舗にも登録を勧め、県補助について教示し、町、県相互による空き店舗解消を図っている。	①関係課と連携し移住・定住推進計画に沿った事業を展開していく。 ①②起業支援補助金制度及び、求人情報についての広報の仕方の検討。(町HP活用や金融機関と連携を図る。) ⑤登録店舗を活用した起業支援についての制度の周知を図るため、広報ましこや町HP等を活用し制度の周知を図る。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	各取組とも第2四半期の方針・改善点を踏まえ実施する。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	関係課と更なる連携を図り事業を推進する。
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	生涯学習課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	住みたい・住み続けたい環境の充実		
施策	選ばれる町への転換	進捗状況	100%		
KPI	人口の社会動態（暦年：1～12月）	本年度目標値	▲10人	現状値	▲120人(1～12月)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主 な 取 組 内 容	4月	⑥町民活動支援センター設立の検討		⑥関係課と検討	
	5月			⑥関係課と検討	
	6月			⑥町民活動に関する支援業務の洗い出しを実施（6／24企画課報告） 関係課と打合せ 6／28 総務課・企画課・健康福祉課・生涯学習課・社教の町民活動に関する支援業務の確認 アンケートの内容や対象団体について検討 担当課の検討	
	7月	⑥庁内検討委員会による検討 アンケートの実施 検討委員会設置要綱・委員（案）の検討			
	8月			⑥8/31市民活動センター県外視察（つくば市・結城市、総務課・企画課・生涯学習課）	
	9月				
	10月	⑥検討委員会の開催 アンケート結果報告 町民活動団体について 他市町先進地視察研修			
	11月			⑥住民との協働について講座を受講（11/24）公民館職員	
	12月				
	1月	⑥検討委員会の開催 支援センター機能・設備・場所について 運営方法について			
	2月				
	3月			3/27 9:00 役場201会議室 関係課打合せ 総務部長・総務係長、企画課長・企画係長・地方創生担当、健康福祉課長・福祉係長、生涯学習係長・生涯学習係	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	町民活動団体は多岐にわたっており、総務課・企画課・健康福祉課・生涯学習課・社教以外の部署においても、町と関わり合いのある団体が存在する。再度、洗出の必要性有り。	庁内全ての課へ、各課で把握している町民活動団体の照会を行う。
第2四半期	⑥支援センター先進地視察及びアンケート結果を踏まえ、関係課との協議により今後のスケジュールの具体化が必要。	⑥アンケートの解析を行い、関係課・社会福祉協議会と連携して町民活動支援に向けた検討をする。
第3四半期	⑥支援センター先進地視察及びアンケート結果を踏まえ、関係課との協議により今後のスケジュールの具体化が必要。	⑥アンケートの解析を行い、関係課・社会福祉協議会と連携して町民活動支援に向けた検討をする。
第4四半期	今後の課題 場所・主務課の検討	・場所 今後検討される図書館機能を有する多世代交流施設への併設を検討していく。 ・町民活動支援の主務課については、交流施設の開設に合わせて検討していく。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	さらに関係各課と連携を密にし、効果性・有効性・経済性を考えながら進めていく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	関係課と連携し推進する。
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	健康福祉課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	住みたい住み続けたい環境の充実		
施策	住み続ける町への躍進	進捗状況	100%		
KPI	年間出生数（暦年：1～12月）	本年度目標値	179人	現状値	109人(1～12月)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			①H28年度実施分の実績と地域通貨の残数の確認。	
	5月	①前年度の反省、今年度の実施方法の検討。 ②施設開設に向けての情報収集と設計委託。 ③縁結びIT広域ネットワーク協議会事務局引継。 ④子育て支援ガイドブックの配布。		①H28年度実績から見た今年度の実施方法の検討。 ②設計委託入札(5/29)、施設見学(高根沢5/31)	
	6月			①地域通貨運営委員会(6/20) ②設計打合わせ(6/8、6/29)、施設見学(水戸6/9) 子育て支援施設アンケート集計 ③縁結びIT広域ネットワーク協議会開催(6/26)	
	7月			②設計打合わせ(7/5、7/11、7/19、7/28)	
	8月	①今年度の実施要綱の策定、対象者への通知、広報。 ②設計完了。運営方法・事業内容の検討。 ③縁結びIT広域ネットワーク協議会事業実施 ④子育て支援ガイドブックの配布		①要綱制定(8/25) ②設計打合わせ(8/9、8/25、8/31)	
	9月			①応援手当対象者抽出・申請書発送準備(9/1～9/28)、申請書発送：対象世帯2,023世帯、対象児童数3,531人(9/29) ②設計打合わせ(9/7)設計完了(9/8)建物貸借使用契約締結(9/29) ③縁結びIT広域ネットワーク協議会視察受け入れ(9/29笠間市)	
	10月			①子育て応援手当支給開始(1,401件、2,511人) ②施設改修工事入札(10/26) ③縁結びIT広域ネットワーク協議会事務局打ち合わせ(10/26)	
	11月	①子育て応援手当支給開始 ②施設改修着工 ③縁結びIT広域ネットワーク協議会事業 ④子育て支援ガイドブックの配布		①子育て応援手当支給(277件、466人) ②施設改修工事契約(11/9)、着工(11/15)、工事打ち合わせ(11/22) ③縁結びIT広域ネットワーク協議会事務局打ち合わせ(11/29)	
	12月			①子育て応援手当支給(120件、204人) ②工事打ち合わせ(12/11、12/27) ③12/24開催予定だったセミナーを3/6に延期	
	1月			①子育て応援手当支給(109件、169人) ②起債事業実地調査(1/11)、工事打ち合わせ(1/15、1/22) ③縁結びIT広域ネットワーク協議会(1/16)、事務局会議(1/31)	
	2月	①前年度の反省、今年度の実施方法の検討 ②施設開設に向けての情報収集と事業内容の検討 ③縁結びIT広域ネットワーク協議会事務局引継 ④子育て支援ガイドブックの配布		①子育て応援手当支給(6件、11人) ②工事打ち合わせ(2/6、2/19) ③縁結びIT広域ネットワーク協議会事務局会議(1/16、1/31)	
	3月			①子育て応援手当支給(3件、7人)、H29年度の支給率95.38% ②工事打ち合わせ(3/1、3/9)、工事完了(3/14)、完了検査(3/23)、引渡し(3/23) ③縁結びIT広域ネットワーク協議会事務局会議(3/2、3/27)、セミナー開催(3/6)、パソコンツアー開催(3/11)	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点
第1四半期	1～6月出生数：51人 ①対象者全員に手当が支給されるような対策を練る必要がある。 ②アンケートの結果を活かせるよう設計や事業を考える必要がある。 ③縁結びIT広域ネットワーク協議会の事務局となったため、他市町との協力体制を築く必要がある。 町単の婚活事業については今までとは別な方法で実施することも考える。	①29年度の実施要綱の策定 ②アンケート結果を設計に反映できるよう設計業者との打ち合わせを綿密に行う。 ③縁結びIT広域ネットワークの婚活イベントの内容について打ち合わせを行う。町単の婚活イベントについては実施方法について商工会や社会福祉協議会とも相談する。
第2四半期	1～9月出生数：80人 ①住民データ集計から対象者の抽出、申請書の作成、発送まで全て手作業であり労力がかかるうえ間違えが起きても不思議でない状況。次年度へ向けての改善点を考える。 ②開設に向け職員体制及び備品・遊具等の数や調達方法を決めていく必要がある。	①トラブルなく支給できるよう対象者の前で支給枚数等の確認を行う。 ②工事にあたっては、工事業者だけでなく監理業務委託業者にも相談しながら進める。 ③バスツアー実施に向けての準備を行う。
第3四半期	1～12月出生数：109人 ①支給率（人数ベース）は前年度の同時期と比較してほぼ同等の90.09%（前年度90.03%） ②工期内の完成を目指す。 ③参加者が集まらないためセミナーを延期した。参加者不足は発足当初から続いているため根本からの見直しが必要。	①支給率を上げるため支給期間を延長するか検討。 ②工期内完成のためにも工事業者との綿密な打ち合わせが必要。 ③1/16に開催する協議会の中で全事業について再検討する。
第4四半期	①アンケートの結果から、平成30年度も地域通貨で支給する方法を検討する。 ②外構工事の早期発注に向けての準備が必要。 ③1/16の協議会で、平成30年度に協議会を解散か休止にすると決まった。	①アンケートの結果と過去のデータをもとに今後の支給方法と未申請者対策を検討する。 ②オープンに向け、外構工事、遊具・備品などの設置、育脳プログラムを活かした事業内容の検討、研修などを行う。 ③縁結びIT広域ネットワークの婚活イベントの内容について打ち合わせを行う。町単の婚活イベントについては実施方法について商工会や社会福祉協議会とも相談する。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1 四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	②申請書と同封の「益子町子育て応援手当の申請について」に対象者は「保護者」と記しているところですが、「保護者」の後にカッコ書きでご家族の方などの文字を付け加えるなどの工夫をしていく。
	第2 四半期	②意見・提言 子育て応援手当について、世帯主以外の家族である代理者（妻）でも申請が可能である旨を事前周知する方が申請しやすくなるのではないかと。	
総括（下半期も含む）	第3 四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	②各種イベントを行うには住民の協力は不可欠。このため町民大学第5期生による支援グループの方には是非ご協力をお願いしたい。また、保健センター事業にご協力をいただいている団体の方にもご協力をいただければと考えている。 周知方法についてはSNSも含め、検診等で保健センターに来られる方に直接話すことや、他の施設にも広報を置くことなど様々な方法を考えている。
	総括（第4 四半期も含む）	②意見・提言 子ども子育て拠点施設について、町民大学第5期生による支援グループが発足している。施設運営にあたっては、これらボランティアグループ等の支援を積極的に計られたい。 新設の子育て支援センターでは、保健センターはもちろんであるが、町内の子育て支援団体と連携されることを望む。 支援センターを町民、特に子育て世代に知ってもらえるよう、SNSを活用してはいかかがか。若い世代はSNSなどネットで情報を得、拡散することが日常化している。	

		課局名	環境課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	住みよい持続可能なましこの創生		
施策	豊かな自然景観の形成と身近な生活空間の整備	進捗状況	100%		
KPI	里山整備実施箇所数（累計）	本年度目標値	32箇所	現状値	33箇所
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主 な 取 組 内 容	4月			①②整備箇所の詳細調整 2箇所（栗生地区・風戸地区） 13.0ha	
	5月	①②里山林整備に向けた整備箇所の把握 ①②整備箇所等の地元合意形成状況の把握		①②新規整備予定箇所の検討 1箇所 1.0ha	
	6月			①②整備箇所の現地確認 1箇所（風戸地区） 2.6ha	
	7月			①②設計書の作成 1箇所（町有林） 34.3ha ①②入札の実施 1箇所（町有林） 34.3ha	
	8月	①②整備箇所に係る設計書の作成 ①②整備箇所に係る協定書の締結 ④前沢町有林の遊歩道の延長等の検討		①②業務委託契約の締結 1箇所（町有林） 34.3ha	
	9月			①②協定書の締結 2箇所（風戸地区・仲之内地区） 3.1ha ①②設計書の作成 1箇所（風戸地区） 2.6ha	
	10月			①②設計書の作成（仲之内地区） 0.5ha ①②見直し合わせの実施（仲之内地区） 0.5ha ①②入札の実施（風戸地区） 2.6ha	
	11月	①②整備箇所の入札の実施及び業務委託の締結 ①②活動組織へ交付金の配付 ④前沢町有林の遊歩道の延長等の検討		①②業務委託契約の締結（風戸地区） 2.6ha ①②協定書の締結（栗生地区） 9.8ha ①②設計書の作成（栗生地区） 9.8ha ①②業務委託に係る確認検査（町有林） 34.3ha	
	12月			①②業務委託に係る確認検査（風戸地区） 2.6ha ①②入札の実施（栗生地区） 9.8ha ①②活動組織へ交付金の配付（星の宮共有財産管理委員会） ④町有林管理委員会において前沢町有林の現地踏査及び意見交換を実施	
	1月			①②業務委託契約の締結（仲之内地区） 0.5ha ①②活動組織へ交付金の配付（荒町里山の会、西明寺自治会）	
	2月	①②業務委託に係る確認検査等 ①②交付金の確認検査及び県へ交付申請		①②業務委託に係る確認検査（栗生地区） 9.8ha ①②活動組織へ交付金の配付（亀岡八幡宮里山の会、栗生みどりの会）	
	3月			①②活動組織へ交付金の配付（西明寺里山の会） ①②活動組織へ交付金の配付（小泉里山の会） ①②活動組織へ交付金の配付（仲之内自治会） 県東環境森林事務所担当との事業完了の確認検査	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	①② 平成29年度においては里山林の整備分40.5ha整備し、交付金の支払いによる地元管理分53.7haを予定している。新規整備については、地権者、整備団体、町による協定の締結を要するため、スムーズに締結できるよう支援していく必要がある。また地元管理が1年目の活動組織については交付金の管理や活動内容などの面できめ細かな支援することが不可欠である。	①② 里山林整備事業にあたっては町有林内の桜の間伐作業も含め、効率的に事業を進めていくことが重要である。現地の状況を的確に把握して業務委託をすすめていく。また、整備が完了し地元管理となった箇所については下草刈など良好な管理がされているかなどを確認し、不備な箇所があれば地元管理団体に対して助言等をし支援していく。
第2四半期	①② 平成29年度の整備地区である仲之内、風戸地区について、3.1haの整備箇所を、地権者、地元、町による協定の締結が済み業務委託をする状況である。地権者及び地元住民との連携を密にして事業を進めて行くことが重要である。 ③町内河川の清掃活動については開催箇所及び日時の検討をしつつ地元の意識を高めていくためにも今後も支援が必要である。	①②④ 里山林整備事業にあたって平成30年度新たな整備に向けて、新規活動組織の発掘をすることが必要である。また特に本年度新たに管理団体となった活動組織に対しては、活動、管理状況の把握や交付金の活用方法について認識してもらうことが必要である。町有林整備については遊歩道延長についても検討していく。 ③百目鬼川等河川の清掃活動については今後も推進支援していく。
第3四半期	①② 風戸地区の整備面積2.6haの業務委託を締結済。業務委託完了後も地権者及び地元住民との連携を密にして管理事業を進めて行くことが重要である。	①②④仲之内、栗生地区の業務委託を早期に締結し作業開始する。里山林整備事業全般については平成30年度、新規活動希望組織に対して地元の合意形成ができるよう住民に対しての説明が必要になる。また特に本年度新たに管理団体となった活動組織に対しては、活動、管理状況の把握や交付金の活用方法について認識してもらうことが必要である。
第4四半期	①②仲之内地区の整備面積0.5ha業務委託を締結。他地区同様業務委託完了後も地権者及び地元住民との連携を密にして管理事業を進めて行くことが重要である。	①②④ 里山林整備事業にあたって平成30年度の新規活動希望組織(田町、栗生地区予定)に対して地元の合意形成ができるよう住民に対しての説明が必要になる。また特に本年度新たに管理団体となった活動組織に対しては、活動、管理状況の把握や交付金の活用方法について認識してもらうことが必要である。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての 次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1 四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	里山林整備事業にあたっては、活動組織の合意形成が必要となるので適切な説明をして事業の進捗を図る。イノシシ等有害鳥獣捕獲の奨励金制度を設けたので被害防止に相乗効果を発揮することを期待している。
	第2 四半期		
総括（下半期も含む）	第3 四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	里山林整備事業にあたっては、活動組織の合意形成が必要となるので30年度についても各組織に適切な説明をして事業の進捗を図る。イノシシ等有害鳥獣捕獲の奨励金制度も引き続き活用し、里山の被害防止に相乗効果を期待していく。
	総括（第4 四半期も含む）		

		課局名	農政課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	住みよい持続可能なましこの創生		
施策	豊かな自然景観の形成と身近な生活空間の整備	進捗状況	100%		
KPI	里山整備実施箇所数（累計）	本年度目標値	32箇所	現状値	33箇所
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			③前年度事業内容の確認検査の実施。	
	5月	③多面的機能支払交付金取組組織への指導助言。		③5/19活動組織向け町研修会の開催。	
	6月				
	7月			③7/3県協議会主催研修会の参加。 ③7/13先進地視察研修会の開催	
	8月	③多面的機能支払交付金取組組織への指導助言。			
	9月				
	10月				
	11月	③多面的機能支払交付金取組組織への指導助言。		③上半期事業内容の確認検査の実施。 ③11/22県協議会主催研修会の参加。	
	12月				
	1月			③1/29～生きものマップ、活動状況パネル展示	
	2月	③多面的機能支払交付金取組組織への指導助言。		③2/6県協議会主催研修会の参加。	
	3月				

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点
第1四半期	③平成28年度の確認検査を実施したが、19組織とも適正に執行されていた。	③引き続き19組織が適正に活動するよう指導する。
第2四半期	③県協議会主催の研修会、町協議会主催の先進地視察研修会を実施し、今後の活動の参考にした	③引き続き19組織が適正に活動するよう指導する。
第3四半期	③上半期の確認検査を実施したが、19組織とも適正に執行されていた。	③引き続き19組織が適正に活動するよう指導する。
第4四半期	③県協議会主催の研修会に参加し、今後の活動の参考にした	③引き続き19組織が適正に活動するよう指導する。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての 次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1 四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	実施計画のとおり事業を継続する。
	第2 四半期		
総括 （下半期も含む）	第3 四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	実施計画のとおり事業を継続する。
	総括 （第4 四半期も含む）		

基本目標		課局名	生涯学習課		
幸せを感じる暮らしをつくる		政策	住みよい持続可能なましこの創生		
施策	豊かな自然景観の形成と身近な生活空間の整備	進捗状況	100%		
KPI	里山整備実施箇所数（累計）	本年度目標値	32箇所	現状値	33箇所
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果			
主な 取組 内容	4月	⑤花のまちづくり事業 ひまわり祭り・コスモス祭りの準備 公共施設への花の植栽	公共施設への植栽準備（仮植・育苗作業） マリーゴールド9,267株 肥料投入5ノ10		
	5月		5/9 ひまわりサミット担当者会議（上三川町） スタンプラリー景品、PRブース、3町共通種等の検討 5/13 コスモス祭り実行委員会の開催 イベント会場・アトラクション等の検討 農地転用申請書の提出、ひまわり会場現地測量 案内看板の作成		
	6月		公共施設へのマリーゴールド配布及び植栽作業 PRポスター・チラシの作成及び配布 ひまわり種の播種 6/16～18(11ha) ひまわり苗の間引き 6/30 職員10名(2ha) 発芽率が良いため実施		
	7月	⑤花のまちづくり事業 ひまわり祭りの実施（8/11～8/20） コスモス祭り臨時駐車場真岡土木協議（8月下旬） ピオラ種10,000個 播種作業 コスモス祭り町職員協力依頼（9月中旬） コスモス祭り生田目地区実行委員会開催（9/16） コスモス祭り会場平面図作成（9月下旬）	7/6コスモス祭り農地一時転用許可申請書提出 7/7ひまわり祭り道路占用許可申請書提出（真岡土木事務所） 7/13ひまわり祭りオープニング主催者・来賓・出演者あて案内状送付 7/14ひまわり祭り町職員交通誘導業務について各課へ依頼（5日間60名） ひまわり苗の間引き 職員9名(1ha) 発芽率が良いため実施 7/15ひまわり間引き苗移植作業及び給水作業 職員2名(1ha)		
	8月		7/26 露天開設（消防）及び催事届（保健所）の提出、ひまわり会場設営打合せ（石塚土建・下野アド）、野木町 フェスタ販売品等準備 7/28 野木町ひまわりイベント参加（職員4名） 7/29 ひまわり祭り上山実行委員会（上山公民館 職員3名） 8/1石塚土建資材搬入 8/2展望台設置工事 8/4草刈り 8/5案内看板設置 員・上山)		
	9月		8/8会場周辺看板設置 8/9ビッグテント・トイレ設置 8/10会場準備（職員・上山） 8/11ひまわり祭り初日 8/12オープニングセレモニー 8/20ひまわり祭り終了 8/22看板撤去作業・後片付け ピオラ種播種10,000個（職員10名） 8/25上三川町ひまわりイベント参加（職員4名） 8/31真岡土木 臨時駐車場使用協議 9/16生田目実行委員会（17）		
	10月	⑤花のまちづくり事業 コスモス祭りの実施（10/7～22） ピオラ苗仮植作業 10,000株（10/3） コスモス祭り案内看板設置（10/3） コスモス祭りビックテント・トイレ設置（10/4） コスモス祭り資材搬出（10/5） コスモス祭り駐車場・テント整備（10/6）	コスモス7/30播種 8/25播種（雨の影響により発芽率が悪かったため） 10/1～6 案内看板設置70枚及びコスモス会場設営準備 10/7～22 コスモス祭り実施 来場者13,114人 10/24～31 片づけ ごみ処理作業 10/3 ピオラ仮植作業10,000株		
	11月		コスモス祭り実行委員会開催（生田目公民館） 11/11(土) 14名 ピオラ苗を公共施設・学校・園へ配布10,000株		
	12月				
	1月	⑤花のまちづくり事業 マリーゴールド育苗作業 実行委員会の開催 小宅古墳群 桜・菜の花祭りの準備			
	2月		2/10ひまわり・コスモス合同反省会		
	3月		3/15マリーゴールド播種作業 3/23花のまちづくり実行委員会開催 203会議室 3/24 小宅 看板作成 3/28 小宅 テント 机 イス 看板設置作業		

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	道の駅が開設されたことにより、大型バスや自転車の乗入れが以前よりも多く考えられる。何らかの交通対策が必要。	道の駅と連携し、レンタルサイクルの利用増を図る。また、大型バスの駐車場を道の駅とする。
第2四半期	⑤花のまちづくり事業 ひまわり祭りに、想定以上の45,333人の来場者があり、かつ、悪天候のため期間中、会場内駐車場が使えなかったため、道の駅駐車場の利用が増え、道の駅駐車場が常時満車状況となってしまった。 雨天時の抜本的な駐車場対策が課題である。	⑤花のまちづくり事業 コスモス祭り雨天時の駐車場対策として、100台程度を収納できる臨時駐車場を確保する。県道つくば益子バイパス予定地を真岡土木事務所と協議し、使用承諾を得て、臨時駐車スペースを設ける。
第3四半期	コスモス期間中の悪天候のため、5日目以降ほぼ全滅状態。 また、悪天候のため、田んぼの中の駐車場は使用不能。 予め、真岡土木事務所から借用した県道つくば益子バイパス道路予定地が活躍した。(アスファルトのため)	荒天の場合、アスファルトの駐車場は有効のため、次年度も引き続き検討する必要がある。
第4四半期	・花のまちづくり実行委員会議 ひまわり・コスモスまつりは来年度で10回目の藤目の年となる。イベント拡充の声あり。 ・小宅 桜菜の花まつり 想定よりも桜が早く開花し、年度内に多くの観光客が訪れた。今年度から町内要所50箇所に案内看板を設置し、その効果が大きいと思われる。リピーターの客も多く、春の益子の新名所となりつつある。	・小宅の場所(亀岡八幡宮)がわからず、通り過ぎてしまう人もいる。案内看板に距離表示を行い、会場入口には目立つ看板の設置が必要である。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての 次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1 四 半 期		
	第2 四 半 期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	引き続き実施計画に基づき、進めていく。
総括（下半期も含む）		委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 コスモス祭り、ひまわり祭りについて、季節を感じる風物詩として定着した感がある。	大規模花畑は、春は菜の花・桜（小宅）、夏はひまわり（上山）、秋はコスモス（生田目）、益子3大花まつりとして位置づけ、引き続きリピーターを増加と関係機関と連携し町内周遊化につながる取組を目指す。

		課局名	環境課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	住みよい持続可能なましこの創生		
施策	自然エネルギーの利用拡大と省エネルギーの普及啓発	進捗状況	100%		
KPI	エネルギー自給率	本年度目標値	15%	現状値	25.9%(H28)
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			③町HP等で掲載済 ③住宅用太陽光発電システム補助金2件の交付決定	
	5月			③広報ましこ・おしらせ版で掲載済 ③住宅用太陽光発電システム補助金2件の交付決定	
	6月			③住宅用木質バイオマスストーブ設置費補助金1件の交付決定	
	7月			③住宅用太陽光発電システム補助金4件の交付決定 ③住宅用木質バイオマスストーブ設置費補助金1件の交付決定	
	8月			③住宅用太陽光発電システム補助金2件の交付決定	
	9月	③補助金の交付決定、確定及び支払い ②他再生可能エネルギー普及に向けての情報等の収集 ①産学官の連携のための情報収集		③住宅用太陽光発電システム補助金1件の交付決定 ③住宅用太陽光発電システム補助金2件の交付決定 ③住宅用木質バイオマスストーブ設置費補助金1件の交付決定	
	10月			③住宅用太陽光発電システム補助金1件の交付決定 ③住宅用太陽光発電システム補助金1件の交付決定 ③住宅用木質バイオマスストーブ設置費補助金1件の交付決定	
	11月			③住宅用太陽光発電システム補助金2件の交付決定	
	12月			③住宅用太陽光発電システム補助金1件の交付申請 ③住宅用太陽光発電システム補助金3件の交付請求 ③住宅用木質バイオマスストーブ設置費補助金1件の交付決定	
	1月			③住宅用太陽光発電システム補助金1件の交付申請 ③住宅用太陽光発電システム補助金5件の交付決定 ③住宅用木質バイオマスストーブ設置費補助金2件の交付決定	
	2月			③住宅用太陽光発電システム補助金1件の交付申請 ③住宅用太陽光発電システム補助金1件の交付決定	
	3月			③住宅用太陽光発電システム補助金4件の交付決定	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	③太陽光発電システム、太陽熱利用システム、木質バイオマスストーブ補助金要綱の制定後、町HP、広報ましこ、お知らせ版、移住・交流推進機構のHPなどでPRしてきたが、太陽光発電システムについては申請があったが、太陽熱利用システム、木質バイオマスストーブについては若干の問い合わせがあるが申請まではいたっていない。今後広報ましこをはじめPRの機会がある度に、広く町民へ浸透させていく必要がある。 ③太陽光発電の出力増加分(kw)実績 平成26年度 一般住宅分335kw 平成27年度 一般住宅分153KW 平成28年度 一般住宅分128KW	③太陽光発電システムについては従来から実施してきた補助制度であり、町民に相当浸透していると思われるが、太陽熱利用システム、木質バイオマスストーブについては、まだ補助制度の周知が十分でないと思われるので、広報ましこ・パンフレット等での更なるPRや、イベントや会議等でPRをして町民に対して広く浸透を図る。
第2四半期	③平成29年9月末時点で太陽光発電システム11件、木質バイオマスストーブ3件の補助金の交付決定をしているが、太陽熱利用システム0件である。木質バイオマスストーブについてはかろうじて前年度実績を上回ったが、太陽光発電システムについては、前年度並みに近い申請状況、太陽熱利用システムについては、近隣市町に補助制度が無くシステムの機能や制度がまだ十分に浸透してないのではないかとと思われる。	③太陽熱利用システム、木質バイオマスストーブについては、広報ましこ等を活用してさらなるPRをし町民に対して広く浸透を図っていく。 ①②再生可能エネルギー普及についての県内市町の状況及び産学官連携先進事例の情報収集についても引き続き進めていく。
第3四半期	③平成29年12月末時点で太陽光発電システム15件、木質バイオマスストーブ4件で、太陽光発電システムについては、前年度より減少傾向にあるが、木質バイオマスストーブは前年度並みの申請状況である。太陽熱利用システムについては、システム設置した場合の機能や補助金制度が浸透してないものと思われる。	③太陽光発電システム、木質バイオマスストーブについては、参加団体の協力を頂き町民祭で展示PRをしたが、今後もPR方法を検討をして町民に対して広く浸透を図る。 ②ペレット関連の情報集も努めていきたい
第4四半期	③29年度末で太陽光発電システム15件、太陽熱利用システム0件、木質バイオマスストーブ4件で、太陽光発電システムについては、前年度比約7割であった。太陽熱利用システム及び木質バイオマスストーブについては、設置した場合の機能や補助金制度が十分に浸透してないものと思われる。	③次年度は木質バイオマスストーブ、太陽熱利用システムについては、更なるPR方法を検討をして町民に対して広く浸透を図る。 ②再生可能エネルギーについての近隣市町村との情報交換も引き続き進めていく。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	メガソーラー設置については県の規制条例制定をみながら町としても条例規則等の検討をしていきたい。太陽熱利用システム、木質バイオマスストーブについては広報、イベント、会議等でPRを図りたい。
	第2四半期	②意見・提言 東田井地区の山の斜面の太陽光発電の景観が気になる。太陽光発電に伴う開発に関し、何らかの規制が必要ではないか。	
総括（下半期も含む）		第3四半期 委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし 総括（第4四半期も含む） ②意見・提言 実施計画に沿って各課連携を図られ実行されたい。	第3四半期 メガソーラー設置については2018.4.1の県の指導指針を参考にしながら町としての条例規則等を検討をしていく。太陽熱利用システム、木質バイオマスストーブについては広報、イベント、会議等でPRを図りたい。自然エネルギー活用については近隣市町連携や更なる情報収集を進めていく。

基本目標		課局名	環境課		
幸せを感じる暮らしをつくる		政策	住みよい持続可能なましこの創生		
施策	ごみの資源化・減量化の推進	進捗状況	100%		
KPI	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	本年度目標値	340g	現状値	401g
KPI	ごみの分別リサイクル率	本年度目標値	38%	現状値	31.0%
KPI		本年度目標値		現状値	
①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果			
主な 取組 内容	4月	①資源物回収団体への奨励金交付、及び資源物ステーション設置補助。 ②生ごみ処理事業、及び使用済小型家電、食用廃油、容器包装プラスチック回収。枯葉等堆肥化事業の試行実施。 ③地域の環境美化運動支援、及び不法投棄看板の設置。	①前年度第四半期資源物回収奨励金の交付 回収量：185t、交付件数：64件、交付金額：1,339,670円 ②生ごみ処理事業回収量：家庭系 22t（全30t） 小型家電回収量 1.3t 廃食用油回収量：0.16t プラスチック容器回収量：0.84t エコ土曜日（資源物回収）：4t ③不法投棄看板設置 2ヶ所		
	5月		②生ごみ処理事業回収量：家庭系 26t（全35t） 小型家電回収量：0.9t 廃食用油回収量：0.12t エコ土曜日（資源物回収）：1t		
	6月		②生ごみ処理事業回収量：家庭系 26t（全35t） 小型家電回収量：0.9t 廃食用油回収量：0.12t エコ土曜日（資源物回収） 2t ③全町環境美化運動の実施		
	7月		①第1半期資源物回収奨励金の交付 回収量：206t、交付件数：68件、交付金額：1,485,860円 ②生ごみ処理事業回収量：家庭系 27t（全35t） 廃食用油回収量：0.18t エコ土曜日（資源物回収）：1.6t 枯葉等堆肥化事業の試行実施 広報ましこ7月号で生ごみ処理事業のPR記事掲載 ③不法投棄看板設置 4ヶ所		
	8月		②生ごみ処理事業回収量：家庭系 32t（全39t） 小型家電回収量 1.4t 廃食用油回収量：0.18t エコ土曜日（資源物回収）：2.1t 枯葉等堆肥化事業の試行実施 各小学校にゴミ減量化のPRちらし配布 共和化工場で小学生対象の「生ごみ堆肥化工場見学」実施 15名参加 生ごみ分別協力依頼のため事業所戸別訪問 1ヶ所 廃油回収場所設置依頼で大型店個別訪問 1ヶ所		
	9月		①広報ましこ9月号で資源物回収の町内先進団体の紹介記事掲載 ②生ごみ処理事業回収量：家庭系 26t（全34t） 小型家電回収 2.3t 廃食用油回収 0.2t エコ土曜日（資源物回収）1.7t 枯葉等堆肥化事業の試行実施 プラスチック回収量 0.1t		
	10月		①第2四半期資源物回収奨励金の交付 回収量：181t 交付件数：66件 交付金額：1,317,830円 ②生ごみ処理事業回収量：家庭系27t（全33t） 廃食用油回収量：0.1t 資源物一斉回収：1.3t 枯葉等堆肥化事業の試行実施		
	11月		②生ごみ処理事業回収量：家庭系25t（全33t） 廃食用油回収量：0.2t 資源物一斉回収：1.2t 小型家電回収：1.3t 枯葉等堆肥化事業の試行実施 生ごみアンケート実施 1000世帯発送		
	12月		②生ごみ処理事業回収量：家庭系25t（全33t） 廃食用油回収量：0.2t 資源物一斉回収：1.5t 小型家電回収：1.3t 枯葉等堆肥化事業の試行実施 生ごみアンケート集計		
	1月		②生ごみ処理事業回収量：家庭系24t（全32t） 廃食用油回収量：0.1t 資源物一斉回収：0.8t		
	2月	①資源物回収団体への奨励金交付、及び資源物ステーション設置補助。 ②生ごみ処理事業、及び使用済小型家電、食用廃油、容器包装プラスチック回収。枯葉等堆肥化事業の試行実施結果検討。 ③地域の環境美化運動支援、及び不法投棄看板の設置。	②生ごみ処理事業回収量：家庭系19t（全25t） 廃食用油回収量：0.1t 資源物一斉回収：0.6t 小型家電回収：0t		
	3月		②生ごみ処理事業回収量：家庭系21t（全29t） 廃食用油回収量：0.1t 資源物一斉回収：0.6t 小型家電回収：1.5t プラスチック回収量 940kg		

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	① 地域の資源物回収はH28年度において780tを超え、町の資源化量の50%を占める有効な手段である。ほとんどの自治体で実施しており実績はH27年度から約50t増加している。今後は未実施自治体への勧奨や、すでに実施団体への回収品目の追加を勧めてさらなる拡充を図りたい。 ② 生ごみ処理事業はもえるごみの減量に有効であるが、家庭系が年々減少傾向にある。再度、生ごみの分別の重要性についてPRを行うとともに、減少している原因を探る必要がある。月1回のエコ土曜日は昨年のPRの効果が現れ、衣類・紙類・アルミ缶・スチール缶・鉄くず、小型家電の量がかなり増えている。住民のニーズは高く、ゴミの減量化にも大きな効果があると思われる。廃油回収については、住民の要望は多いと思われるので、さらに回収量を増やすための対策が必要である。プラスチック容器回収は、モデル地区で浸透しており実施住民からは継続や実施地域拡大の意見も出ている。今後は試行実施の結果を検証していく。 ③ 従来より全町で住民の協力により実施しており、環境に対する意識向上のため継続すべきと考える。また個別に実施している団体の支援も継続していきたい。	① 地域の資源物回収の有効性をPR、先進団体の紹介等により団体及び住民の意識啓発を図る ② まだ、生ごみを燃えるゴミで出している事業所へ個別訪問し生ごみ処理事業への理解と協力を依頼。家庭用生ごみについてアンケートを実施し、減少している原因を探り対策を講じる。廃油については、回収量を増やすため、大型店などで回収できるよう協力を依頼する。プラスチック容器回収については、課題となる排出量・運搬費・中間処理料・一時保管場所について試行実施の結果を検証するとともに、実施している自治体の事例を参考にすることで、今後の方向性について検討していきたい。
第2四半期	① 地域の資源物回収は、H28と比較して26t回収量が減少している。スーパーの店頭で実施している資源物回収など、多様な回収ルートが確保されていることも一つの原因と考えられる。資源物回収量は減少したものの、実施団体は増加していることから、住民の資源化に対する意識は拡充していると考えられる。 ② 生ごみについては、従来の広報でのPRに加え小学生を対象に生ごみ堆肥化工場の見学をとおしてPRを実施した。子供への環境教育はもちろんのこと、保護者からの生ごみ処理に対する率直な意見は、今後実施予定の生ごみ処理アンケートの参考となり有効であった。小型家電回収やエコ土曜日(資源物回収)は、住民への周知が広まり回収量が安定してきている。コンテナに入らない小型家電や自転車の回収を実施することはゴミの減量化・住民の利便性の向上などメリットの多い事業であると考えられる。 枯葉・草の堆肥化の試行実施については、期間を延長し新たなアンケートを実施した。袋の値段や形状について住民の意見を広く聞くことができた。 ③ 環境保全協力員をはじめ、地域では環境美化に積極的な取り組みがみられ、4ヶ所の不法投棄の看板の設置依頼があった。	① 地域の資源物回収は未実施の団体に個別勧奨していきたい ② 生ごみ処理事業はPRしているものの家庭系の処理量が減少しているため、11月に1000世帯を対象に生ごみ処理アンケートを実施し今後の事業展開について検討していきたい。 廃プラ回収については、試行実施による経費に基づいたシミュレーションにより、本格実施について検討する。 枯葉・草の堆肥化事業についても、処理方法が同一の生ごみ堆肥化事業の方向性と合わせ慎重に検討したい。
第3四半期	① 第2四半期資源物回収量は、第1四半期よりは減少しているものの昨年同時期よりは増となった。 ② 廃プラ回収については、試行実施の結果多大なコストがかかること(焼却1kgあたり37円のところ廃プラは76.5円)、また再商品化された場合のCO2排出量も焼却した場合を上回ることが判明し試行をいったん休止することとした。 枯葉等堆肥化事業についても、試行実施の結果一部地域での利用に限られており年間約3000枚の利用が予想されるが、生分解性の袋の製造は最低10,000枚以上となり実施した場合は多大なコストがかかることが予想される。(1kgあたり59.7円) 生ごみアンケートでは、生分解性の袋について住民の率直な意見を聞くことができた。	① 次期四半期には自治会が新体制となるところが多いので、資源物の回収品目の追加の実施や、未実施自治体への勧奨を実施したい。 ② 廃プラ回収・枯葉等堆肥化事業については、試行実施により具体的な試算・シミュレーションが可能となった。今回はコストやCO2の排出量の問題でいったん休止するが今後も最新の情報を収集し問題をクリアできた段階で本格実施について再検討できるような体制を取っていきたい。 ③ 生ごみアンケートの意見を参考に、生ごみ堆肥化事業を推進するため新たな事業の実施について検討した。
第4四半期	① 資源物回収奨励金は、昨年度と比較すると減少傾向にある。更なる取組の活性化を図るため、積極的に自治会に回収品目の追加や新規実施を働きかける必要がある。 ② 生ごみ処理事業は、事業系に係る排出業者数、排出量とも増加傾向にあるものの、家庭系の減少傾向は継続している。生ごみアンケートの結果、可燃ごみにしてしまう理由の主なものに「生分解性の袋の強度の弱さ」「手間がかかること」であることが判明した。生分解性の袋の強度については限界があり改善の余地が無くなってきているため、「袋の強度」が原因で生ごみ堆肥化事業に参加しない住民を取り戻すことは困難と考える。今後は環境や生ごみ堆肥化事業に関心がある住民に積極的にPRし、参加した人が継続したいと思うような仕組みをどのように作っていくかが課題となる。	① 資源物回収奨励金は、昨年度と比較すると減少傾向にある。更なる取組の活性化を図るため、積極的に自治会に回収品目の追加や新規実施を働きかける必要がある。 ② 生ごみ処理事業は、事業系に係る排出業者数、排出量とも増加傾向にあるものの、家庭系の減少傾向は継続している。今後は生ごみ堆肥化事業のPRと参加者拡大を図るため、生ごみアンケートの結果を受け、ホームページなどで生分解性の袋の具体的な使用方法をPRするほか、参加者への特典を設けていきたい。また、コンポスト、乾燥機などの生ごみ処理機のPRも併せて実施していきたい。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期		
	委員の検証及び意見・提言		
上半期	①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし		試行実施している新たな事業については、環境負荷の少ない循環型社会の本来の目的達成に本当に効果があるのか、コストやCO₂排出量の面から慎重に検討したい。 既存の事業については、住民の意見を参考に更なる推進に努めたい。
	②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。		
総括（下半期も含む）	第2四半期		
	委員の検証及び意見・提言		
総括（下半期も含む）	①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし		町ホームページに掲載した生ごみ処理アンケートの結果について処理を工夫した事例等を広報誌等で周知しごみ減量化に努めていく。その他の事業についても、住民の意見を参考に更なるごみ減量化に努めていく。
	②意見・提言 生ごみ肥料化に関するホームページへの記事掲載に関し、記事内容が工夫されていたので、引き続き広報・町民周知を図られたい。		

		課局名	健康福祉課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	健康・長寿ましくづくりの推進		
施策	運動を通した健康づくりの推進	進捗状況	100%		
KPI	健康指標全国順位	本年度目標値	10位	現状値	35位(H24)
KPI	18歳以上の運動習慣者の割合	本年度目標値	22%	現状値	21.1%
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果	
主な取組内容	4月	①健幸ポイント制度・健幸サポーターの事業を推進していく。 【健幸ポイント】 ・事業開始(消耗品の購入、ポイントカードや様式等の作成) ・町民へのPRを実施 【健幸サポーター】 ・健幸ポイントと平行して事業を開始 事業内容の整備、PR・Tシャツ作成 ②運動教室の実施計画および体組成計の普及啓発。 7/30糖尿病について、12/14ロコモティブシンドロームについて講演会予定である。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。		①【健康ポイント】・カード等の作成、ゴム印、万歩計等を購入 ・チラシを作成し、全戸へ配布 【健幸サポーター】・Tシャツ作成(職員用40枚) ②運動教室の内容検討会を担当者間で実施。体組成計測定の案内について、全戸にチラシ配布。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。	
	5月	①【健幸ポイント】・受付開始 ※申請者:68名 ・さわやか健康リョウ会場や事業実施時に付、参加申請書を配布 【健幸サポーター】・Tシャツ作成(町民用130枚) ・募集開始 ※登録者:2名 ②運動教室内容について健康財団との打ち合わせ(5/23)を実施し、計画準備。体組成計測定(5/15)では30歳代から70歳代と幅広い年齢層の45名実施。健診結果説明会に各種運動教室・覧チラシを作成。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。		①【健幸ポイント】・申請者:69名(延べ137名) 【健幸サポーター】登録者:13名(延べ15名) ・サポーターへ健康講座の配布を依頼 ②運動教室内容について計画準備。体組成計測定は30歳代から70歳代と幅広い年齢層の45名実施。健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシの配布。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。	
	6月	①【健幸ポイント】・申請者:69名(延べ137名) 【健幸サポーター】登録者:13名(延べ15名) ・サポーターへ健康講座の配布を依頼 ②運動教室内容について計画準備。体組成計測定は30歳代から70歳代と幅広い年齢層の45名実施。健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシの配布。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。		①【健幸ポイント】申請者63名(延べ200名)【健幸サポーター】登録者20名(延べ35名) ②体組成計測定(7/24)48人実施。40~64歳の特定保健指導対象者の測定(7/27)10人実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。	
	7月	①【健幸ポイント】・申請者63名(延べ200名)【健幸サポーター】登録者20名(延べ35名) ②体組成計測定(7/24)48人実施。40~64歳の特定保健指導対象者の測定(7/27)10人実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。		①【健幸ポイント】申請者10名(延べ210名)【健幸サポーター】登録者5名(延べ40名) ②体組成計測定(8/28)47人実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。ノルディックウォーキング教室を広報誌子お知らせ版で周知し、参加者を募集。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。	
	8月	①【健幸ポイント】・申請者10名(延べ210名)【健幸サポーター】登録者5名(延べ40名) ②体組成計測定(8/28)47人実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。ノルディックウォーキング教室を広報誌子お知らせ版で周知し、参加者を募集。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。		①【健幸ポイント】申請者21名(延べ231名)【健幸サポーター】登録者5名(延べ45名)・サポーターへ料理教室参加者募集チラシ配布を依頼。 ・「献血」を健幸ポイント対象事業とする。ポイント制度参加者のうち、55歳以下の方へ献血協力依頼を送付。 ②体組成計測定(9/25)48人実施。40~64歳の特定保健指導対象者の測定(9/9)9人実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。 10/20、11/12ノルディックウォーキング教室を計画し、委託業者と打合せを実施。広報誌子お知らせ版で周知し募集を募った。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。	
	9月	①【健幸ポイント】申請者21名(延べ231名)【健幸サポーター】登録者5名(延べ45名)・サポーターへ料理教室参加者募集チラシ配布を依頼。 ・「献血」を健幸ポイント対象事業とする。ポイント制度参加者のうち、55歳以下の方へ献血協力依頼を送付。 ②体組成計測定(9/25)48人実施。40~64歳の特定保健指導対象者の測定(9/9)9人実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。 10/20、11/12ノルディックウォーキング教室を計画し、委託業者と打合せを実施。広報誌子お知らせ版で周知し募集を募った。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。		①【健幸ポイント】申請者27名(延べ258名)【健幸サポーター】申請者5名(延べ53名) ②体組成計測定(10/16)37名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。第1回目のノルディックウォーキング教室を開催。19名参加。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。	
	10月	①【健幸ポイント】申請者27名(延べ258名)【健幸サポーター】申請者5名(延べ53名) ②体組成計測定(10/16)37名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。第1回目のノルディックウォーキング教室を開催。19名参加。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。		①【健幸ポイント】申請者34名(延べ292名)【健幸サポーター】申請者4名(延べ57名) 健康まつり会場で事業PR及び参加者募集実施。 ②体組成計測定(11/20)42名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。第2回目のノルディックウォーキング教室を開催。19名参加。健康まつりでは体組成計100名、内臓脂肪計20名実施。他、運動指導士による個別相談や実技指導、運動普及啓発用資料媒体の展示を実施。	
	11月	①【健幸ポイント】申請者34名(延べ292名)【健幸サポーター】申請者4名(延べ57名) 健康まつり会場で事業PR及び参加者募集実施。 ②体組成計測定(11/20)42名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。第2回目のノルディックウォーキング教室を開催。19名参加。健康まつりでは体組成計100名、内臓脂肪計20名実施。他、運動指導士による個別相談や実技指導、運動普及啓発用資料媒体の展示を実施。		①【健幸ポイント】申請者34名(延べ326名)【健幸サポーター】申請者8名(延べ65名) サポーターへ日赤市民公開講座及び健幸ポイント案内配布を依頼。公開講座会場でも参加勧奨実施。 ②体組成計測定(12/18)49名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。併せて運動指導士による集団実技指導36名、及び個別指導を実施。	
	12月	①【健幸ポイント】申請者34名(延べ326名)【健幸サポーター】申請者8名(延べ65名) サポーターへ日赤市民公開講座及び健幸ポイント案内配布を依頼。公開講座会場でも参加勧奨実施。 ②体組成計測定(12/18)49名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。併せて運動指導士による集団実技指導36名、及び個別指導を実施。		①【健幸ポイント】申請者14名(延べ340名)【健幸サポーター】申請者4名(延べ69名) ②体組成計測定(1/22)56名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。併せて運動指導士による集団実技指導及び個別指導を実施。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。	
	1月	①【健幸ポイント】申請者14名(延べ340名)【健幸サポーター】申請者4名(延べ69名) ②体組成計測定(1/22)56名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。併せて運動指導士による集団実技指導及び個別指導を実施。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。		①【健幸ポイント】申請者32名(延べ372名)【健幸サポーター】申請者6名(延べ75名) 健幸サポーター研修会として有隣インストラクターによる講演会を計画。サポーターを通じ一般の方への参加勧奨も依頼する。 「生命の貯蓄体操益子支部」と連携し、同会員への参加勧奨を依頼。 ②体組成計測定(2/19)40名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。	
	2月	①【健幸ポイント】申請者32名(延べ372名)【健幸サポーター】申請者6名(延べ75名) 健幸サポーター研修会として有隣インストラクターによる講演会を計画。サポーターを通じ一般の方への参加勧奨も依頼する。 「生命の貯蓄体操益子支部」と連携し、同会員への参加勧奨を依頼。 ②体組成計測定(2/19)40名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。		①【健幸ポイント】申請者13名(延べ385名)【健幸サポーター】申請者1名(延べ76名)・3/5 健幸サポーター研修会(有隣講演会)を実施。サポーター参加21名(他一般参加者33名)と多くの参加があった。運動のみならず、健康分野において様々な波及効果がみられる。 ②体組成計測定(3/19)45名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。	
	3月	①【健幸ポイント】申請者13名(延べ385名)【健幸サポーター】申請者1名(延べ76名)・3/5 健幸サポーター研修会(有隣講演会)を実施。サポーター参加21名(他一般参加者33名)と多くの参加があった。運動のみならず、健康分野において様々な波及効果がみられる。 ②体組成計測定(3/19)45名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。		①【健幸ポイント】申請者13名(延べ385名)【健幸サポーター】申請者1名(延べ76名)・3/5 健幸サポーター研修会(有隣講演会)を実施。サポーター参加21名(他一般参加者33名)と多くの参加があった。運動のみならず、健康分野において様々な波及効果がみられる。 ②体組成計測定(3/19)45名実施。窓口や健診結果説明会で各種運動教室・覧チラシを配布。 ③⑤健康教室・健康まつり等各種健康づくり事業等を通し、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介していく。	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	①【健幸ポイント】 ・事業実施等の勧奨により、参加者数は順調に増加している。 【健幸サポーター】 ・登録者の年齢層が30歳代～80歳代と幅広い。今後、様々な健康づくりへの協力が望めそうである。 ②体組成計測定のチラシ配布の反響が多く、利用者数も想定以上であった。また30歳代の方もおり、新規層の発掘につながった。測定後の保健指導にわたり円滑となるよう、体制づくりが必要である。 ③⑤健康づくり事業において、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介し、生活習慣病やロコモティブシンドローム予防のために運動の推進をしていく。	①【健幸ポイント】 ・引き続き事業の周知を図り、参加者を募集してゆく。 【健幸サポーター】 ・職員のみでなくサポーターによる勧奨等を依頼し、登録者の募集を強化する。 ②運動教室の実施にむけ、引き続き内容検討を図りたい。体組成計測定で今後も多くの利用者が考えられるため、体制強化を図る。引き続き新規層にも働きかけを継続していく。 ③⑤健康づくり事業において、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介し、生活習慣病やロコモティブシンドローム予防のために運動の推進をしていく。
第2四半期	①各種健康事業の際に周知・勧奨を実施し、参加者数は順調に増加しているが、引き続き参加者を募る。体組成計測定など毎月コンスタントにポイントが付くものへの参加が順調である。 ②毎月多くの方の利用がある。測定結果を、健康づくりの励みにされている方が多い様子。今後も広く事業の周知を図り、新規者の獲得に努めたい。測定参加者が多い分、時間を要するため、測定から保健指導をさらにスムーズに実施したい。運動教室を効果的に実施できるよう引き続き準備していく。 ③⑤健康づくり事業において、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介し、生活習慣病やロコモティブシンドローム予防のために運動の推進をしていく。	①ポイント数を確実に伸ばしてゆけるよう、ましこチャレンジクラブとの連携などポイント対象事業の検討をしてゆく。 ②運動教室を効果的に実施できるよう引き続き準備していく。体組成計の継続測定者への保健指導の内容を工夫するなど、より円滑な体制強化を図る。引き続き、新規層にも働きかけを継続していく。 ③⑤健康づくり事業において、ウォーキングコースやサイクリングロードを紹介し、生活習慣病やロコモティブシンドローム予防のために運動の推進をしていく。
第3四半期	①参加者は順調に増加している。サポーターへの通知も定期的に実施しており周囲への意識啓発が期待される。 ②体組成計測定では、毎月多くの方の利用がある。測定の待ち時間を有効活用するため、10月からは集団健康教育を導入した。12月は運動編で、運動指導士による集団講話や実技体験、個別指導は具体的で好評であった。ノルディックウォーキング教室を実施し、100%の継続参加率であり、満足度も高かった。健康まつりでは、多くの方に向けた運動での健康づくり推進普及が図れた。	①引き続き事業の場等での勧奨実施。 サポーター啓発のため、研修会を検討してゆく予定。 ②体組成計測定に合わせ、引き続き集団教育を展開し、引き続き体制強化を図る。
第4四半期	①5月より募集を開始し、月により増減はあるものの目標以上の参加者を獲得した。ポイントの地域通貨への交換も始めており、35名(1000マッシュ17名、500マッシュ18名)へ配布した。ウォーキングポイントについては参加者から「励みになる」との声が複数聞かれており、運動習慣の動機づけになっていることが窺える。現在では定期的にポイントを獲得できる項目が限られていることから、今後対象事業を検討してゆく。 ②新規事業として1年間実施してきた。毎回多くの利用者があり、また新規者も毎回10人以上と順調に新規層も確保できてきた。10月から、待ち時間を有効にするため、栄養編・運動編と集団教育を導入し、内容の充実化が図れた。運動実技や個別指導は好評で、運動の推進が図れた。 ③⑤次年度は従来の歩け歩け大会に替えたウォーキング推進事業として実施する「ましこ健康ウォーク」で、ウォーキングコースやサイクリングロードを利用したコースを検討する。	①新規参加者獲得のために、自主教室等の団体との連携も含め、広報やPR方法を検討する。次年度は「ましこチャレンジクラブ」・「スクールガード」との連携を実施。また、参加者が定期的にポイントを得られるよう、対象事業を検討してゆく。 ②次年度は毎月第3火曜日を「健康デー」とし、体組成計測定や個別栄養相談、健幸ポイント、運動・栄養集団教育を同日に実施し、町民の健康づくりをトータルサポートできるよう、さらなる体制強化を図る。 ③⑤従来に加え、「ましこ健康ウォーク」で町内ウォーキングコースやサイクリングロードを利用したウォーキング教室を実施する。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	運動の推進は、生活習慣病予防、ロコモティブシンドローム予防にもつながっている。そのため、今後も運動習慣者の定着や増加に向けた健康づくり事業を、引き続き推進していく。
	第2四半期	②意見・提言 ④次期四半期以降の課題への方針・改善点に「サイクリングロードを紹介し」とあるが、どこをどのように整備してあるものなのか。 ロコモティブシンドロームについて、講演会の実施・周知等だけではなく、どれだけ改善されているか等の追跡調査を検討すべきである。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	事業内容を充実させ、より効果的な展開方法を検討しつつ、引き続き実施する。
	総括（第4四半期も含む）	②意見・提言 胃腸病の予防教室について、受講者が多数となり、急きょ教室の開催数を増やすなどの対応は評価できる。また、体組成計を使う町民が増えてきているなど、町民の健康への意識の変化が表れていると推測する。	

		課局名	高齢者支援課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	健康・長寿ましこづくりの推進		
施策	運動を通した健康づくりの推進	進捗状況	100%		
KPI	健康指標全国順位	本年度目標値	10位	現状値	35位(H24)
KPI	18歳以上の運動習慣者の割合	本年度目標値	22%	現状値	21.1%
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			①予防教室・運動教室等において健幸ポイントを周知・説明	
	5月	①健幸ポイント周知		①予防教室・運動教室等において健幸ポイントを周知・説明	
	6月			①予防教室・運動教室等において健幸ポイントを周知・説明	
	7月			①予防教室・運動教室等において健幸ポイントを周知・説明	
	8月	①健幸ポイント周知		①予防教室・運動教室等において健幸ポイントを周知・説明	
	9月			①予防教室・運動教室等において健幸ポイントを周知・説明	
	10月			①予防教室・運動教室等において健幸ポイントを周知・説明	
	11月	①健幸ポイント周知		①予防教室・運動教室等において健幸ポイントを周知・説明	
	12月			①予防教室・運動教室等において健幸ポイントを周知・説明	
	1月			①予防教室・運動教室等において健幸ポイントを周知・説明	
	2月	①健幸ポイント周知		①予防教室・運動教室等において健幸ポイントを周知・説明	
	3月			①予防教室・運動教室等において健幸ポイントを周知・説明	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1 四半期	①町民へ健幸ポイントについてきちんと説明できるよう健康福祉課と情報共有する。	①今後も引き続き予防教室・運動教室等において健幸ポイントの周知・説明を行う。
第2 四半期	①町民へ健幸ポイントについてきちんと説明できるよう健康福祉課と情報共有する。	①今後も引き続き予防教室・運動教室等において健幸ポイントの周知・説明を行う。
第3 四半期	①町民へ健幸ポイントについてきちんと説明できるよう健康福祉課と情報共有する。	①今後も引き続き予防教室・運動教室等において健幸ポイントの周知・説明を行う。
第4 四半期	①町民へ健幸ポイントについてきちんと説明できるよう健康福祉課と情報共有する。	①今後も引き続き予防教室・運動教室等において健幸ポイントの周知・説明を行う。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	引き続き健康福祉課と連携し、健幸ポイント制度の周知を行う。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	引き続き健康福祉課と連携し、健幸ポイント制度の周知を行う。
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	生涯学習課		
基本目標	幸せ感じる暮らしをつくる	政策	健康・長寿ましこづくりの推進		
施策	運動を通した健康づくりの推進	進捗状況	100%		
KPI	健康指標全国順位	本年度目標値	10位	現状値	35位(H24)
KPI	18歳以上の運動習慣者の割合	本年度目標値	22%	現状値	21.1%
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主 な 取 組 内 容	4月	④ましこチャレンジクラブ（総合型スポーツクラブ）の参加者を増やすための運営事務及び広報活動等の支援		④クラブ事務局員の変更に伴う、PC等の設定、及び会員申込受付の支援を行った。	
	5月			④クラブ運営委員会にて運営の検討(5/9) ④クラブ総会に参加し、事業報告や計画、予算等について説明を受けクラブ運営について再確認した。(5/20) ④芳賀地区総合型SC連絡協議会にて7/9開催のフェスタについて内容の検討をした(5/13)	
	6月			④芳賀地区スポーツ交流会について、広報内容の検討し、広報誌お知らせ版に掲載する準備を進めた。芳賀地区総合型SC連絡協議会にて、7/9開催のフェスタについて内容の検討をした。(6/24)	
	7月	④ましこチャレンジクラブ（総合型スポーツクラブ）の参加者を増やすための運営事務及び広報活動等の支援		④クラブ運営委員会にて運営の検討(7/4) 現在加入者549名。来期クラブマネージャー及び芳賀地区スポーツ交流会について検討をした。 ④芳賀地区スポーツ交流会を開催し、未加入者へのPRと参加者相互の親睦を図った。(7/9) ④7月下旬お知らせ版にて、会員募集について掲載した。	
	8月			④クラブ運営委員会にて運営の検討(8/8) 現在加入者553名 ④8月下旬お知らせ版にて、会員募集及びフラダンスPRについて掲載した。	
	9月			④運営委員会にて運営の検討(9/12) 現在加入者558名。来期クラブマネージャーの紹介をした。	
	10月	④ましこチャレンジクラブ（総合型スポーツクラブ）の参加者を増やすための運営事務及び広報活動等の支援		④運営委員会にて運営の検討(10/17) 現在加入者564名。 スポーツ交流会(2/12開催)について検討	
	11月			④運営委員会にて運営の検討(11/14) 現在加入者590名。 平成30年度の予算、及びスポーツ交流会について検討 ④11月下旬お知らせ版にて、会員募集について掲載した。	
	12月			④運営委員会にて運営の検討(11/14) 現在加入者609名。 平成30年度補助金申請について検討 ④12月上・下半期お知らせ版にて、会員募集について掲載した。 ④芳賀地区総合型SC連絡協議会にて平成30年度フェスタ開催について打合せをした。(12/22)	
	1月			④1月上・下半期お知らせ版にて、会員募集について掲載した。 ④運営委員会にて運営の検討(1/23) 現在加入者611名。来期の事業計画について検討。	
	2月	④ましこチャレンジクラブ（総合型スポーツクラブ）の参加者を増やすための運営事務及び広報活動等の支援		④上半期お知らせ版にて、ましこスポーツ交流会参加者募集について掲載。下半期にて平成30年度クラブ会員募集について掲載。 ④運営委員会について運営の検討(2/6) 現在加入者611名。来期の事業計画と交流会の打合せ。2/12ましこスポーツ交流会開催に伴う支援	
	3月			④3月上半期・下半期お知らせ版にて、会員募集について掲載した。 ④運営委員会について運営の検討(3/13) 来期の行事予定、新規教室等について打合せ。	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	④クラブ運営委員会及び事業部会に参加し、クラブ運営や事業の検討を密に行っている。クラブ事務局員の勤務体制が変わったため(時間減)、事務局員不在時の対応や、連絡調整を良く行う。運営がスムーズに進むよう事務的な支援は随時行っている。 6/29時点で546名の加入であり、前年度の6月末(565名)より若干減少している。(途中で退会した団体の人数分が減少)今後、新規加入者の確保のため、さらなる広報活動が必要である。	7/9に芳賀地区スポーツ交流会(4つの総合型スポーツクラブ合同開催)が益子町で開催されるので、多くの方々が参加し、会員加入につながるよう広報をしていきたい。
第2四半期	月に1度のクラブ運営委員会に参加し、事業の検討を密に行っている。次期クラブマネージャーが決まり、来期へスムーズに事務等が引継げるよう調整をしている。参加者増に向けて、広報ましこお知らせ版に掲載したが、現在の加入者が558名であり、昨年同期590名と比較して減少気味である。今後もさらにPR活動を進め、認知度を上げていく必要がある。	広報の仕方や内容を検討しながら、参加したくなるようなプログラムについて、今後も検討を続けていきたい。
第3四半期	月に1度のクラブ運営委員会に参加し、事業の検討を密に行っている。次期クラブマネージャーが来期へスムーズに事務等が引継げるよう調整をしている。参加者増に向けて、広報ましこお知らせ版に掲載したが、現在の加入者が609名であり、増加傾向にある。昨年同期630名と比較してほぼ同数となってきた。今後もさらにPR活動を進め、認知度を上げていく必要がある。	2/12にスポーツ交流会開催に向けて、多くの参加者が集まるよう、PR活動をしていきたい。また、チャレンジクラブの認知度を上げるよう、広報活動を継続していきたい。
第4四半期	④町広報誌を利用して、チャレンジクラブのPR回数を従来より増やしたので、住民の方々が目にする機会が増えたと思われる。しかし、掲載内容について、入会金の紹介が主だったため、興味を引かせることが弱かった。 クラブ運営委員会及び事業部会に参加し、クラブ運営や事業の検討を密に行い、また、運営がスムーズに進むよう事務的な支援は随時行ってきた。	④町広報誌を利用して、興味を持てるような記事を掲載し、参加者加入を促すよう努めたい。 クラブマネージャーが交代になるため、連絡を密にして加入者等のサービス向上に繋がるように進めて行く。 toto助成金が4年後に打ち切りになる予定のため、自立できるように検討を進めていく必要がある。町からの支援方法を検討。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	引き続き、広報ましこお知らせ版で、「ましこチャレンジクラブ」について掲載し、興味を持ってもらうようPR活動を実施していく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	広報ましこお知らせ版で、「ましこチャレンジクラブ」について掲載を継続することによって、興味を持ってもらうようPR活動を実施していく。
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	健康福祉課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	健康・長寿ましこづくりの推進		
施策	食事を通した健康づくりの推進	進捗状況	100%		
KPI	メタボリックシンドローム該当者の割合	本年度目標値	14.7%	現状値	18.8%
KPI	メタボリックシンドローム予備軍の割合	本年度目標値	10.6%	現状値	11.2%
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			①②③④計画検討および実施。①適正な食生活・適正体重の普及のため、個別栄養相談や体組成計測定、保健指導を実施。3名実施、うち1名はヤングミニ健診後のフォロー者。	
	5月	①③健康相談・教室の開催、広報等の活用により、生活習慣病の発症・重症化の予防、食育推進のため、計画検討及び実施。 ②健康レシピコンテスト実施に向けて、食育推進会議で案案を検討。 ④郷土料理教室開催、普及に向けて計画立案。		①②③④計画検討および実施。①適正な食生活・適正体重の普及のため、全戸に体組成計測定のお知らせを配布。また個別栄養相談や体組成計測定、保健指導を実施。4名実施のうち2名はヤングミニ健診後のフォロー者。体組成計測定は30歳代から70歳代と幅広い年齢層の45名実施。①男性料理教室を開催。	
	6月			①②③④計画検討および実施。①適正な食生活・適正体重の普及のため、個別栄養相談や体組成計測定、保健指導を実施。5名実施のうち2名はヤングミニ健診後のフォロー者。体組成計測定は33名実施。①広報に食育に関する記事を掲載。②③食育推進会議にて「健康レシピコンテスト」案案を検討。野菜を摂る習慣の定着推進のため、テーマを野菜料理とした。④7月に発酵料理教室を開催。	
	7月			①②③④について実施。①広報に食育に関する記事を掲載。①男性料理教室を開催。②③「健康レシピコンテスト」を開催（7月～8月）。テーマ「野菜もう一品の朝食レシピ」～野菜を食べる元気モリモリ～④発酵料理教室を開催（参加者20名）。①適正な食生活・適正体重の普及のため、個別栄養相談や体組成計測定、保健指導を3名実施。体組成計測定は58名の実施。	
	8月	①③健康相談・教室の開催、広報等の活用により、生活習慣病の発症・重症化の予防、食育推進を実施。 ②健康レシピコンテスト実施（7月～8月）。1次審査会を9月に実施予定。 ④郷土料理教室を開催。		①②③④について実施。①おやこの食育教室を開催（参加者25名）。②③「健康レシピコンテスト」を開催（7月～8月）。①適正な食生活・適正体重の普及のため、個別栄養相談や体組成計測定、保健指導を6名実施。体組成計測定は47名実施。今年度の健診を受診された方で、栄養相談を特に勧めたい方を61名選定し、個別栄養相談の案内はがきを送付。	
	9月			①②③④について実施。①男性料理教室を開催。②③「健康レシピコンテスト」1次審査を実施。4作品を2次審査へ選出。①適正な食生活・適正体重の普及のため、個別栄養相談や体組成計測定、保健指導を6名実施。体組成計測定は57名実施。	
	10月			①②③④について実施。①骨粗鬆症予防料理教室を開催（参加者28名）。②③「健康レシピコンテスト」2次審査会を開催。①適正な食生活・適正体重の普及のため、個別栄養相談5名実施、体組成計測定37名実施。併せて健康食レシピ40食配布し、減塩や脂の摂り方について集団教育を実施。	
	11月	①③健康相談・教室の開催、広報等の活用により、生活習慣病の発症・重症化の予防、食育推進を実施。 ②健康レシピコンテスト2次審査会を10月に実施予定。 ④郷土料理教室（和菓子教室）を開催。		①②③④について実施。①男性料理教室を開催。①町駅伝大会にて減塩豚汁を800食配布し、薄味の普及啓発を図った。①健康まつりにて、健康や食に関する媒体の展示や個別栄養相談、健康相談を実施。②③健康まつりにて、「健康レシピコンテスト」最優秀賞の展示紹介、特別賞の100食試食配布。体組成計100名実施。内臓脂肪計20名実施。①適正な食生活・適正体重の普及のため、個別栄養相談4名、体組成計測定42名実施。併せて健康食レシピ42食配布し、減塩・血圧・肥満についての集団教育を実施。	
	12月			①②③④について実施。①④和菓子づくり教室を開催（参加者24名）。①適正な食生活・適正体重の普及のため、個別栄養相談4名、体組成計測定49名実施。併せて運動指導士による集団実技指導36名や個別指導を実施。	
	1月			①②③④について実施。①男性料理教室を開催。①みそ汁の塩分測定会を開催。①適正な食生活・適正体重の普及のため、個別栄養相談4名、体組成計測定56名実施。併せて運動指導士による集団実技指導 名や個別指導を実施。④ましこ広報に「季節の行事と行事食」について掲載。	
	2月	①③健康相談・教室の開催、広報等の活用により、生活習慣病の発症・重症化の予防、食育推進を実施。 ②健康レシピコンテストの作品情報をホームページに掲載予定。 ④広報等で行事食の情報を発信。		①②③④について実施。①男性料理教室を開催。①適正な食生活・適正体重の普及のため、個別栄養相談5名、体組成計測定40名実施。①③併せて栄養士による集団講話・健康食試食40食配布や個別指導を実施。①③ヤングミニ健診結果説明会時に集団講話・健康食試食、個別指導を実施。②③「健康レシピコンテスト」のレシピをホームページ、ましこ広報に掲載。	
	3月			①②③④について実施。①男性料理教室を開催。①適正な食生活・適正体重の普及のため、個別栄養相談5名、体組成計測定45名実施。①③併せて栄養士による集団講話・健康食試食45食配布や個別指導を実施。	

	③担当課の点検・検証 (②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。)	④次期四半期(第4四半期は、次年度)以降の課題への方針・改善点
第1四半期	①運動習慣および食習慣改善により、引き続き生活習慣病・メタボの予防改善に努める。特定保健指導や個別栄養相談の機会を活かし、生活習慣病予防への意識改革や行動変容につながるよう努める。新規事業である個別相談受講者の反応も良好で、体組成計も多くの利用があり、かつ若年層への意識啓発が図れた。 ②③食育推進委員や関係機関と協力し「健康レシピコンテスト」開催へむけて準備できた。④教室の内容について検討を行った。	①②③④事業内容を充実させ、より効果的な展開方法を検討しつつ、引き続き実施する。
第2四半期	①運動習慣および食習慣改善により、引き続き生活習慣病・メタボの予防改善に努める。特定保健指導や個別栄養相談の機会を活かし、生活習慣病予防への意識改革や行動変容につながるよう努める。新規事業である個別相談受講者の反応も良好で、体組成計も多くの利用があり、かつ若年層への意識啓発が図れた。 ②③食育推進委員や関係機関と協力し「健康レシピコンテスト」を開催した。幼稚園、保育園、小学校、中学校、道の駅等にコンテストのポスター掲示等を依頼し、また教室等でPRをしたが、応募数が少なかった。次年度以降、簡単なテーマにする等改善が必要である。④教室を開催し、好評だった。	①②③④事業内容を充実させ、より効果的な展開方法を検討しつつ、引き続き実施する。
第3四半期	①運動習慣および食習慣改善により、引き続き生活習慣病・メタボの予防改善に努める。特定保健指導や個別栄養相談の機会を活かし、生活習慣病予防への意識改革や行動変容につながるよう努める。体組成計の待ち時間を有効活用し、10月と11月は、栄養に関する講話と試食の提供、12月は運動に関する講話と実技体験を実施し、好評であった。②「健康レシピコンテスト」は、2次審査会が終了し、受賞した料理を町健康まつりで普及・啓発した。④教室を開催し、好評だった。	①②③④事業内容を充実させ、より効果的な展開方法を検討しつつ、引き続き実施する。
第4四半期	①運動習慣および食習慣改善により、引き続き生活習慣病・メタボの予防改善に努める。特定保健指導や個別栄養相談の機会を活かし、生活習慣病予防への意識改革や行動変容につながるよう努める。体組成計の待ち時間を有効活用し、1月は運動に関する講話と実技体験を実施、2月と3月は栄養に関する講話と試食の提供を実施し、好評であった。②③④「健康レシピコンテスト」や行事食について、ホームページや広報等で情報を発信・普及啓発した。	①②③④事業内容を充実させ、より効果的な展開方法を検討しつつ、引き続き実施する。①においては、30年度病態別栄養教室を開催予定。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けて の 次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1 四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・4委員 改善・見直し・・・1委員 廃止・終了・・・なし	事業内容の充実を図り、縦り効果的な展開方法を検討し、引き続き実施する。
	第2 四半期	②意見・提言 健康レシピコンテストの審査に携わったが、コンテスト応募数も少なく、公募は難しいのではないかと考える。代案として、道の駅での取組は大変活発であることから、一緒にコラボレーションをしてこちらから発信して何種類かのメニューを作り食べ比べする企画などもよいのではないかと。	
総括（下半期も含む）	第3 四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	事業内容を充実させ、より効果的な展開方法を検討しつつ、引き続き実施する。
	総括（第4 四半期も含む）	②意見・提言 実施計画に沿って各課連携を図られ実行されたい。	

		課局名	農政課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	健康・長寿ましこづくりの推進		
施策	食事を通した健康づくりの推進	進捗状況	100%		
KPI	メタボリックシンドローム該当者の割合	本年度目標値	14.7%	現状値	18.8%
KPI	メタボリックシンドローム予備軍の割合	本年度目標値	10.6%	現状値	11.2%
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な取組内容	4月			③指定管理者である駒ましこカンパニーと管理運営協定を締結し、販売施設「ましこのマルシェ」及び飲食施設「ましこのごはん」において、地元農産品の販売や食の提供を行うとともにHP・チラシ等で情報発信を行なった。	
	5月	③道の駅の指定管理者と業務仕様書に基づき、管理運営協定を締結する。 ③施設運営者が、安全・安心な地元野菜に関する情報を発信する。		③販売施設「ましこのマルシェ」及び飲食施設「ましこのごはん」において、地元農産品の販売や食の提供を行うとともにHP・チラシ等で情報発信を行なった。	
	6月			③販売施設「ましこのマルシェ」及び飲食施設「ましこのごはん」において、地元農産品の販売や食の提供を行うとともにHP・チラシ等で情報発信を行なった。 6/1-6/30【道の駅】サラダフェア、益子の野菜による飲食メニューの提供 6/2保健センター主催による食育会議の開催 6/19田野小6年生（総合的な学習・出前講座）40名への講義開催	
	7月			③販売施設「ましこのマルシェ」及び飲食施設「ましこのごはん」において、地元農産品の販売や食の提供を行うとともにHP・チラシ等で情報発信を行なった。 7/1-7/2【道の駅】ブルーベリー祭 7/22地場果実を活用した料理教室の開催 【道の駅】ビルマ汁コンテスト、d47食堂「益子定食」提供、カタログギフト製作、オンラインショップ開設	
	8月	③施設運営者が、安全・安心な地元野菜に関する情報を発信する。		③販売施設「ましこのマルシェ」及び飲食施設「ましこのごはん」において、地元農産品の販売や食の提供を行うとともにHP・チラシ等で情報発信を行なった。今月より定食メニューを変更。 8/11-20お盆・ひまわりフェア開催 8/19地場野菜を活用した料理教室の開催 8/30学校給食（地産供給）打合せ	
	9月			③販売施設「ましこのマルシェ」及び飲食施設「ましこのごはん」において、地元農産品の販売や食の提供を行うとともにHP・チラシ等で情報の発信を行なった。 9/16・9/23地場果実を活用した料理教室の開催 9/6道の駅主催の月見会を開催 9/30ましこ町民大学において講義	
	10月			10/8ましこの新米祭の開催 10/9地場野菜を活用した料理教室の開催（11名） 10/15ましこのマルシェ大試食祭の開催 10/15どこでもクリニック健康診断の実施 10/28、29とちぎ食と農ふれあいフェアへの出店	
	11月	③施設運営者が、安全・安心な地元野菜に関する情報を発信する。		③販売施設「ましこのマルシェ」及び飲食施設「ましこのごはん」において、地元農産品の販売や食の提供を行うとともにHP・チラシ等で情報の発信を行なった。 11/18地場果実を活用した料理教室の開催 11/25、26新そば祭り	
	12月			③販売施設「ましこのマルシェ」及び飲食施設「ましこのごはん」において、地元農産品の販売や食の提供を行うとともにHP・チラシ等で情報の発信を行なったほか、年末年始に向けた蕎麦・餅の販売斡旋を実施。	
	1月			③販売施設「ましこのマルシェ」及び飲食施設「ましこのごはん」において、地元農産品の販売や食の提供を行うとともにHP・チラシ等で情報の発信を行なったほか、地場素材を活用した恵方巻の販売斡旋を実施。	
	2月	③施設運営者が、安全・安心な地元野菜に関する情報を発信する。		③販売施設「ましこのマルシェ」及び飲食施設「ましこのごはん」において、地元農産品の販売や食の提供を行うとともにHP・チラシ等で情報の発信を行なった。	
	3月			③販売施設「ましこのマルシェ」及び飲食施設「ましこのごはん」において、地元農産品の販売や食の提供を行うとともにHP・チラシ等で情報の発信を行なった。 3/25地場野菜を活用した料理教室の開催	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	指定管理者が、業務仕様に基つき適正に業務を行なっている。	情報の提供・発信については実施されているので、今後はメニューレシピ等の提供を行うよう指導していく。
第2四半期	指定管理者が、業務仕様に基つき適正に業務を行なっている。	情報発信や農産品の提供については実施されている。 地場農産品を活用したメニューレシピ等の提供を行うよう引き続き指導していく。
第3四半期	指定管理者が、業務仕様に基つき適正に業務を行なっている。	情報発信や農産品の提供については適切に実施されている。 地場農産品を活用したメニューレシピ等の提供やPOPの活用による情報提供を行うよう指導していく。
第4四半期	指定管理者が、業務仕様に基つき適正に業務を行なっている。	情報発信や農産品の提供について通年にわたり適切かつ効果的に実施された。 地場農産品を活用したメニューレシピ等の提供やPOPの活用による情報提供を行うよう引き続き指導していく。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降への方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	①実施計画のとおり事業を継続する。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	実施計画のとおり事業を継続する。
	第4四半期		

		課局名	企画課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	だれもがいきいきと生活できる環境の充実		
施策	高齢者の生きがいがいづくりの推進と障がい者支援の充実	進捗状況	100%		
KPI	介護予防教室及び高齢者サロンの参加者実人数	本年度目標値	258人	現状値	292人
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主 な 取 組 内 容	4月			③デマンド運行（利用実績1,000人）	
	5月	③デマンドタクシー「ひまわり号」運行及び関連業務		③デマンド運行（利用実績1,077人）	
	6月			③地域公共交通会議（第1回会議 6/23）を開催し、H28決算報告及び生活交通確保維持改善計画について審議した。 ③デマンド運行（利用実績1,200人）	
	7月			③デマンド運行（利用実績1,160人）	
	8月	③デマンドタクシー「ひまわり号」運行及び関連業務		③デマンド運行（利用実績1,183人）	
	9月			③デマンド運行（利用実績1,122人） 上期分利用者数は6,742人で前年度比203人の増 登録者数は3,003人で前年度末から58人の増	
	10月			③デマンド運行（利用実績1,096人）	
	11月	③デマンドタクシー「ひまわり号」運行及び関連業務		③デマンド運行（利用実績1,118人）	
	12月			③デマンド運行（利用実績1,160人） 利用累計 H29年12月累計 10,116人（前年比 104%） 登録者数は3,041人（第2四半期から38人の増）	
	1月			③デマンド運行（利用実績992人） ③地域公共交通会議（第2回会議・書面決議）	
	2月	③地域公共交通計画策定（第3回会議）、パブリックコメントの実施、計画の決定、デマンドタクシー運行及び関連業務、県中央交通協議会フォーラム		③デマンド運行（利用実績1,039人）	
	3月			③地域公共交通会議（第3回会議・書面決議） ③デマンド運行（利用実績1,046人） ③登録者数は3,092人（第3四半期から51人の増） ④29年度利用者計 13,193人	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	③デマンドタクシーのより良い利用のため、昨年策定した計画やアンケートを元に要望に応じていきたい。高齢者が利用の多数を占めているため、今後の社会動態からも益々重要性、必要性が高まるものと考えられる。	利用者数は安定している。利用者増加を図るためPRを図っていく。
第2四半期	③デマンドタクシーの利用状況については、全体として前年対比で増加しているため、まずまずの結果と考えるが、1日当りの利用目標人数にはまだ達していない状況である。高齢化社会において益々重要性、必要性が向上していくものと考えられるため、PRに努め、より一層の利用者増加を図ってきたい。	③デマンドタクシーの効率的な運行をめざし、利用者の更なる増加をはかるため、広報ましこ等による制度のPRを行っていく。また、デマンドタクシーのみならず、基幹軸としての真岡鉄道や民間バスとの連携を強化し、公共交通網の充実を進め、町民の生活圏の拡大を図っていく。
第3四半期	③寒い時期になるため利用者は第2四半期から比べると激減している。全体としては前年比で増加しているため、まずまずの結果と考えている。高齢化社会においてデマンドタクシーは、今後益々重要性、必要性が向上していくものと考えられるため、PRに努め、より一層の利用者増加を図ってきたい。	③引き続きデマンドタクシーのPRを行うとともに、運行委託業者と連絡調整を図りながら、利用者へのサービス向上と運行に係る収支率の改善に努めていく。
第4四半期	③年々、デマンドタクシー利用者が増加していることから、高齢者の新たな移動手段として、これからも利用者が伸びていくものと考えられる。	③利用希望が、町内においては乗り継ぎの利便性向上や、12時の時間帯での運行。町外にあっては、町外施設への乗り入れなどの諸問題が考えられる。費用と必要性を考慮し今後の検討課題と考える。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降への方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	各取組とも第2四半期の方針・改善点を踏まえ実施していく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 日赤等、真岡市へのデマンドタクシー乗り入れについて利用者である高齢者の利便性も考慮し、引き続き検討されたい。	日赤等、真岡市へのデマンドタクシーの乗り入れについては、高齢者の利用率が高い状況を考えると喫緊の課題であると考え。次年度においては、他の公共交通機関である真岡鐵道との連携や他市町へ乗り入れ場合のランニングコスト等についても、継続的に検証を行っていき。また、同様の課題を抱える近隣市町とも情報の共有を図りながら、より効率的で利便性の高い制度運用を目指していきたいと考えている。
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	高齢者支援課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	だれもがいきいきと生活できる環境の充実		
施策	高齢者の生きがいづくりの推進と障がい者支援の充実	進捗状況	100%		
KPI	介護予防教室及び高齢者サロンの参加者実人数	本年度目標値	258人	現状値	292人
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			①4/3新規サロンの打合せ（星の宮サロン） 4/5新規サロンオープン（星の宮サロン） 4/4、11総会（28年度の実施状況確認） 4/18健康講話（ましこふれあいサロン） 4/24新規サロンオープン（ふれあいサロンいちご）	
	5月	①ふれあいサロン推進事業補助金交付 ふれあいサロン活動支援 ②高齢者総合福祉計画策定準備		①5/19サロンボランティア募集についての打合せ 5/24健康講話実施（星の宮サロン） 5/23ふれあいサロン推進事業補助金交付（星の宮サロン） ②第7期高齢者総合福祉計画策定委員のうち、公募委員の募集（町HP、広報ましこおしらせ版にて広報）	
	6月			①6/6定例会（実施内容の検討・相談） サロンボランティア募集チラシの作成 6/12、6/15ふれあいサロン推進事業補助金交付（ましこの里サロン、新町サロン） ②第7期高齢者総合福祉計画策定委員会資料作成、公募委員の決定	
	7月			①サロンボランティア募集（新町） 1名申込 ②7/31 第1回高齢者総合福祉計画策定委員会	
	8月	①ふれあいサロン推進事業補助金交付 ふれあいサロン活動支援 ②高齢者総合福祉計画策定		①8/30健康講話実施（星の宮サロン） もの忘れ予防教室参加者募集	
	9月			①もの忘れ予防教室実施 9/12 9/19 9/26 ②9/25 第2回高齢者総合福祉計画策定委員会	
	10月			①もの忘れ予防教室実施 10/3 10/10 10/17 10/24 10/31	
	11月	①ふれあいサロン推進事業補助金交付 ふれあいサロン活動支援 ②高齢者総合福祉計画策定		①もの忘れ予防教室 11/7 11/14 11/21 11/28 ②11/2 第3回高齢者総合福祉計画策定委員会	
	12月			①ふれあいサロン推進事業補助金交付申請依頼（アップルサロン） 新規サロン立上げのための相談・説明 ②12/21 第4回高齢者総合福祉計画策定委員会	
	1月			①1/16健康講話（自主教室）	
	2月	①ふれあいサロン推進事業補助金交付 ふれあいサロン活動支援 ②高齢者総合福祉計画策定		①2/14健康講話（星の宮サロン） ②2/8 第5回高齢者総合福祉計画策定委員会	
	3月			①3/20健康講話（ましこの里） 2/10～3/4離れめぐりにおいて、サロン及び介護予防教室参加者による作品の展示	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	①6月末サロン・教室参加実人数293名（うちサロン98名、一次予防教室105名、自主教室90名） 新しくサロンを2か所開設し、サロンの数は増えている。しかし運営するボランティアの不足も見られたため回覧板にて運営ボランティアの募集を行った。また運営する上での悩みや相談に乗るよう努めた。参加者が個々の得意分野を生かして講師となり活躍できるよう支援した。 ②第7期計画の策定に向けて、第6期計画の実績等について、課内できりまとめると同時に、課内で計画に關しての共通理解を図ること、7月以降の計画策定委員会の円滑な議事進行に繋がるよう努めた。	①サロンの運営が安定するよう、ボランティアの募集をする。またサロンボランティアとして活動することの魅力をもくの人に伝えていく。 予防教室では、自主教室を支援するとともに、個々に適した場を紹介できるよう健康福祉課や生涯学習課と連携していく。 ②第7期計画の策定に向けて、計画に盛り込むべき内容を精査し、町の各事業が各々、有機的な連携がとれたものにするここと、充実したよりよい計画づくりを目指す。
第2四半期	①9月末サロン・教室参加実人数308名（うちサロン98名、介護予防教室105名、もの忘れ予防教室15名、自主教室90名） ボランティアが不足しているサロンについては、その地域の回覧板でボランティアの募集を行った。申し込みは1名のみであった。少ない人数で、サロンの運営ができるよう内容の提案や相談を随時実施していった。 ②高齢者総合福祉計画策定委員会を開催し（①7/31、②9/25）、各委員から忌憚のない意見をいただくここと、実情を踏まえながらも、理想に達した高齢者福祉を実現するための計画づくりに着手した。	①サロンでは、参加者が講師として活動する機会も増え、以前より少ないボランティアで運営できるようになっている。しかし、それでもサロンによっては、ボランティアの不足はあるため、今後もボランティアの募集やサロンの周知をおこなっていく。 ②引き続き、高齢者総合福祉計画に盛り込むべき内容を精査し、町の各事業が各々、有機的な連携がとれたものにするここと、充実したよりよい計画づくりを目指す。
第3四半期	①12月末サロン・教室参加実人数293名（うちサロン98名、介護予防教室105名、自主教室90名） サロン運営の実施状況を訪問等で確認し、実施内容の提案等や相談を随時実施していった。 ②高齢者総合福祉計画策定委員会を開催し（③11/2、④12/21）、各委員からの意見を踏まえ、計画内容の充実に努めた。	①各サロンとも、実施内容や参加者の対応等での共通の悩みがあるため、ボランティア同士の情報交換を含めた勉強会を実施していく。また、ボランティアが不足しているサロンがあるため、引き続きボランティアの募集を行っていく。 ②引き続き、高齢者総合福祉計画に盛り込むべき内容を精査し、町の各事業が各々、有機的な連携がとれたものにするここと、充実したよりよい計画づくりを目指す。
第4四半期	①3月末サロン・教室参加実人数292名（うちサロン102名、介護予防教室109名、自主教室81名） サロン運営の実施状況を確認し、実施内容の提案等や相談を随時実施していった。離れぐりに参加し役場玄関前に作品を展示した。新規加入者もあったため、サロンの活動を周知する上で効果があったと思われる。 ②高齢者総合福祉計画策定委員会を開催し（⑤2/8）、各委員からの意見を踏まえ、計画内容の充実に努めた。	①安定したサロンの運営ができるよう、ボランティアの募集をおこなっていく。サロンの活動をより多くの人に知っていただけるよう周知方法を検討していく。 ②関係各所と連携を図り、策定した高齢者総合福祉計画の実現を目指す。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての 次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上 半 期	第1 四 半 期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	今年度開設したサロンの運営も安定してきている。しかしボランティアの人数が不足しているサロンもあるので、引き続きボランティア募集とサロン活動の周知を行っていく。 計画策定の総括時期となることから、様々な観点から、改めて、計画内容の精査を行った上で、完成を目指す。
	第2 四 半 期		
総 括 （ 下 半 期 も 含 む ）	第3 四 半 期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	今年度開設したサロンの運営も安定してきている。しかしボランティアの人数が不足しているサロンもあるので、引き続きボランティア募集とサロン活動の周知を行っていく。 策定した高齢者総合福祉計画に基づいて、関係機関や既存組織等と連携し、高齢者福祉の推進に努める。
	総括（第4 四 半 期 も 含 む ）		

		課局名	学校教育課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる		だれもがいきいきと生活できる環境の充実		
施策	高齢者の生きがいづくりの推進と障がい者支援の充実	進捗状況	100%		
KPI	介護予防教室及び高齢者サロンの参加者実人数	本年度目標値	258人	現状値	292人
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主 な 取 組 内 容	4月				
	5月	⑤七井小：全校生が高齢者とのふれあい除草活動。 ③田野中・七井中学校2年生がマイ・チャレンジ社会体験活動事業を活用し、交流活動実施。 ⑥七井小：5年生が特別支援学校との交流活動。 ⑤七井中：1年生が益子支援学校との交流活動。		⑤5/10 益子特別支援学校との交流活動を実施。（七井小5年生62人） ⑤5/31 益子特別支援学校との交流活動を実施。（七井中1年生61人）	
	6月			⑤6/2 高齢者とふれあい除草活動は悪天候のため中止。 ⑤6/7 総合的な学習の時間で、社会福祉協議会をとおして、高齢者講話。車イス、白杖について学習。（七井小4年生：58名） ⑤6/14～16 七井中2年生マイ・チャレンジ社会体験活動事業交流活動。七井老人ホームへ3名参加。	
	7月			⑤7/5 総合的な学習の時間で、社会福祉協議会をとおして、高齢者講話。車イス、白杖について学習。（田野小3年生：42名） ⑤7/10 総合的な学習の時間で、社会福祉協議会をとおして、高齢者講話。車イス、白杖について学習。（益子西小4年生：47名） ⑤7/25・26・28・31 中学生の町ボランティアスクールへの参加（田野中1名・益子中2名・七井中5名）	
	8月	⑤田野小・益子小：運動会で高齢者を招き、ふれあい種目を共同。 ⑤益子中：運動会で高齢者介護施設入居者を招待し、接待や介助協力。 ⑥田野中・益子中・七井中：中学生の町ボランティアスクールへの参加体験の周知。		⑤8/1・2 中学生の町ボランティアスクールへの参加（田野中1名・益子中3名）	
	9月			⑤9/9 運動会で高齢者介護施設入居者を招待し、接待や介助協力実施。（益子中） ⑤9/16 運動会で高齢者を招き、ふれあい種目を実施。（田野小・益子小）	
	10月			⑤10/4 総合的な学習の時間で、高齢者及び障害者との交流活動実施。ましこの里ほしのみ・友愛作業所（益子西小4年生：47名） ⑤10/6 益子特別支援学校との交流活動実施（七井小4年生：58名） ⑤10/6 総合的な学習の時間で、社会福祉協議会をとおして、高齢者講話。車イス、白杖について学習実施。（田野小3年生：42名） ⑤1/29 生活科で、祖父母を招き、ふれあい学習（昔遊び）実施予定。（益子小1年生：52名）	
	11月	⑤田野小：総合的な学習で、高齢者にワークショップ形式の講話。 ⑤益子小：低学年の生活科で高齢者を招き、ふれあい学習。 ⑤益子西小：総合的な学習の時間で、「ましこの里ほしのみや」で高齢者との交流活動。 ⑤七井小：3年生が特別支援学校の見学の実施。4年生が特別支援学校との交流活動。 ⑤益子中：2年生がマイ・チャレンジ社会体験活動での介護体験活動。		⑤11/7 生活科で、地域の高齢者を招き、ふれあい学習（昔遊び）実施。（七井小1年生：64名） ⑤11/14～16 マイ・チャレンジ社会体験活動で、介護体験活動実施。シルバーケアホームのぞみ（益子中2年生：1名） ⑤11/28 益子特別支援学校見学実施（七井小3年生：52名）	
	12月				
	1月			⑤1/29 生活科で、祖父母を招き、ふれあい学習（昔遊び）実施。（田野小1年生：64名）	
	2月	⑤益子西小：1年生の生活科で高齢者を招き、ふれあい学習の実施。 ⑥七井小：1年生の生活科で、交流活動。		⑤2/5 生活科で、祖父母を招き、ふれあい学習（昔遊び）実施。（益子西小：57名）	
	3月				

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
	各学校の福祉教育計画に従い、実施することができた。	高齢者との交流については各小中学校で実施及び実施予定である。障害者との交流については、七井地区のみになっているため、今後、検討していきたい。
第2四半期	各学校の福祉教育計画に従い、実施することができた。	総合的な学習の時間のテーマとして、田野小3年生「(福祉) 福祉について考えよう」、益子小6年生「(地域・環境・福祉・国際理解) 今、わたしにできること」、益子西小4年生「(福祉) 福祉を考えよう」、七井小4年生「(福祉) 自分、そして身の回りを見つめて」、田野中3年生「(地域・環境・福祉・国際理解) 社会の問題を見つけよう ～国際(日本の文化)・福祉・環境について解決策を提案する」を取り上げている。調査活動等で施設訪問や施設利用者との交流活動を行えるよう、支援したい。
第3四半期	各学校の福祉教育計画に従い、実施することができた。	総合的な学習の時間のテーマとして、田野小3年生「(福祉) 福祉について考えよう」、益子小6年生「(地域・環境・福祉・国際理解) 今、わたしにできること」、益子西小4年生「(福祉) 福祉を考えよう」、七井小4年生「(福祉) 自分、そして身の回りを見つめて」、田野中3年生「(地域・環境・福祉・国際理解) 社会の問題を見つけよう ～国際(日本の文化)・福祉・環境について解決策を提案する」を取り上げている。調査活動等で施設訪問や施設利用者との交流活動を行えるよう、支援したい。
第4四半期	各学校の福祉教育計画に従い、実施することができた。	次年度も、各学校の福祉教育を総合的な学習の時間や生活科、学校行事等において、計画的に実施できるよう、支援したい。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
第1 四半期		委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	実施計画に沿い連携を図り、福祉教育を充実したい。
	第2 四半期		
第3 四半期		委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	学校と関係機関との連携を図らせ、実施計画に沿った福祉教育を実施する。 各学校への情報提供すると共に、新年度に向けた各学校への福祉教育の見直しを促す。
	第4 四半期		
総括（下半期も含む）		委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	
総括（第4四半期も含む）			

		課局名	生涯学習課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	だれもがいきいきと生活できる環境の充実		
施策	高齢者の生きがいづくりの推進と障がい者支援の	進捗状況	100%		
KPI	介護予防教室及び高齢者サロンの参加者実人数	本年度目標値	258人	現状値	292人
KPI		本年度目標値		現状値	
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主 な 取 組 内 容	4月			開催計画の作成	
	5月	④高齢者講師の暮らしに役立つ講座 年間講座のプランニング作成 講座の開催		開催計画の作成	
	6月			開催計画の作成 いきいき講座主催講座 9件 町主催講座 5件	
	7月			開催計画の実施 いきいき講座主催講座 2件 7/23盆踊りを踊ろう 5名参加 7/26蚤かご編み 7名参加 町主催講座 2件 7/15・16そば打ち教室 19名参加	
	8月	④高齢者講師の暮らしに役立つ講座の開催		開催計画の実施 町主催講座 1件 8/27そば打ち教室 23名参加	
	9月			開催計画の実施 いきいき講座主催講座 1件 9/16生け花教室 10名参加 町主催講座 3件 9/9・16絵手紙教室 3名参加 9/17そば打ち教室 23名参加	
	10月			開催計画の実施 いきいき講座主催講座 3件 10/11ゲートボール教室:2名参加 10/21生け花教室:10名参加 10/28山ゆりを栽培しよう 8名参加 主催講座 1件 10/15そば打ち教室 25名参加	
	11月	④高齢者講師の暮らしに役立つ講座の開催		開催計画の実施 町主催講座 1件 11/26そば打ち教室 25名参加	
	12月			開催計画の実施 町主催講座 3件 12/17、23そば打ち教室	
	1月	④高齢者講師の暮らしに役立つ講座の開催		計画の実施 町主催教室 1/13 初心者俳句教室 7名参加 うち優秀者を広報ましこに掲載	
	2月			計画の実施 町主催教室 2/10 初心者俳句教室 7名参加 うち優秀者を広報ましこに掲載	
	3月			来年度主催講座の講師選定・講師依頼	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	高齢者の生きがいにもなることから、継続して進める。	広報お知らせ版やホームページ等で幅広く周知していく。
第2四半期	講座のメニューに日曜大工的なものがないので、今後のメニュー開発が課題。 各講座によって参加人数に差がある。町民に広く呼びかけ、参加者の確保に努める。	新規メニューの開拓のため、ホームページ等で講師の募集を行う。
第3四半期	講座のメニューが固定化している、今後のメニュー開発が課題。 講座講師を町民に広く呼びかけに努める。	新規メニューの開拓のため、お知らせ版等で講師の募集を行う。
第4四半期	平成30年度に行う主催講座の講師選定・依頼を行った。例年、講座メニューの固定化が課題だったが、30年度は今年度好評だった初心者俳句教室に加え、新たに健康パン・お菓子作り教室を行う予定。	開催形態の変更を行い、多くの町民が参加しやすい環境を整える。 講師との連絡を密に行い、スムーズな講座の開催に努める。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての 次半期（下半期は、次年度）以降への方針・改善点
上半期	第1 四 半 期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	引き続き実施計画に基づき進めていく。
	第2 四 半 期		
総括（下半期も含む）	第3 四 半 期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	引き続き実施計画に基づき進めていく。
	総括（第4 四 半 期 も 含 む）	②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	

		課局名	総務課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	地域の安全・安心体制の強化		
施策	防犯・防災体制、交通安全対策の充実	進捗状況	100%		
KPI	刑法犯発生件数（暦年：1～12月）	本年度目標値	69件	現状値	88件
KPI	交通事故発生件数（人身 暦年1～12月）	本年度目標値	20件	現状値	23件
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主な 取組 内容	4月			②交通安全教室の実施、免許返納関係 学生 12回 2,234人 高齢者 1回 50人 免許返納 2名	
	5月	①地域での見守り体制の充実として、青パト講習会実施 ②交通事故防止のための免許返納事業PR、高齢者・子供の交通安全教室の実施 ③防災講習会の開催		①青色防犯パトロール講習会実施 12名 ②交通安全教室の実施、免許返納関係 学生 24回 558人 高齢者 1回 8人 免許返納 1名 H29累計3名 ③宇都宮気象台（防災気象官）による講習会開催 64名	
	6月			③交通安全教室の実施、免許返納関係 学生 16回 1,044人 高齢者 1回 15人 免許返納 2名 H29累計5名	
	7月			①防災メール、防災無線により犯罪増加の注意喚起 ③交通安全教室の実施、免許返納関係 学生 10回 632人 免許返納 1名 H29累計6名	
	8月	①地域での見守り体制の充実として、青色パトロールの実施 ②交通事故防止のための免許返納事業PR、高齢者・子供の交通安全教室の実施 ③防災講習会の開催 ④自主防災組織の立上サポート		①防災メール、防災無線により犯罪増加の注意喚起 ③交通安全教室の実施、免許返納関係 学生 4回 275人 高齢者 1回 25人 免許返納 2名 H29累計8名	
	9月			③交通安全教室の実施、免許返納関係 学生 5回 310人 高齢者 4回 62人 免許返納 4名 H29累計12名 ④芦沼自治会の防災組織立上サポート	
	10月			①防災メール、防災無線により特殊詐欺の注意喚起 パトロール 15回 ②交通安全教室の実施、免許返納関係 学生 6回 264人 高齢者 8回 84人 免許返納 1名 H29累計13名 ③総合防災訓練実施	
	11月	①地域での見守り体制の充実として、青色パトロールの実施 ②交通事故防止のための免許返納事業PR、高齢者・子供の交通安全教室の実施 ③防災訓練の実施 ④自主防災組織のサポート		①防災メール、防災無線により交通安全の注意喚起 パトロール 16回 ②交通安全教室の実施、免許返納関係 学生 12回 876人 高齢者 1回 60人 免許返納 4名 H29累計 17名	
	12月			①防災メール、防災無線により交通安全の注意喚起 パトロール 13回 ②交通安全教室の実施、免許返納関係 学生 5回 470人 ④芦沼自治会自主防災組織立上サポート	
	1月			①防災メール、防災無線により交通安全の注意喚起 パトロール 18回 ②交通安全教室の実施、免許返納関係 学生 7回 606人 高齢者 1回 40人 免許返納 4名 H29累計 21名 ④戸戸自治会自主防災組織立上サポート	
	2月	①地域での見守り体制の充実として、青色パトロールの実施 ②交通事故防止のための免許返納事業PR、高齢者・子供の交通安全教室の実施		①防災メール、防災無線により車上荒らしの注意喚起 パトロール 16回 ②交通安全教室の実施、免許返納関係 学生 7回 780人 免許返納 6名 累計 27名	
	3月			①防災メール、防災無線により特殊詐欺についての注意喚起 パトロール 19回 ②交通安全教室の実施、免許返納関係 学生 6回 270人 免許返納 6名 累計 33名	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	②交通安全教室等については、継続して行うことが、交通事故防止へつながると考える。 刑法犯の発生件数は、37件(5月末)対前年比 増9件となっている。 交通事故発生件数は、7件(5月末)対前年比 増2件となっている。 ②運転免許の自主返納事業については、交通インフラが良くないため、返納したがない人が多い。	・高齢者の事故件数は、7件中1件であるが警察に協力してもらい免許の自主返納を推進していく。 ・第2四半期は、暑さにより窓を開けておく家が多くなるため、忍び込み等の犯罪が増加傾向にあるため、注意喚起を行うなどする。 ・防災に関する講習会等を実施し、防災意識を向上させる。
第2四半期	②交通安全教室等については、継続して行うことが、交通事故防止へつながると考える。 刑法犯の発生件数は、69件(8月末)対前年比 増18件となり、今年度の目標値に達してしまった。 交通事故発生件数は、12件(8月末)対前年比 増3件となっている。 ②運転免許の自主返納事業については、交通インフラが良くないため、返納したがない人が多いが、口コミにより制度が浸透しつつある。	・日没時間が早くなる季節であるため、公用車での青色防犯パトロールを強化する。 ・交通安全教室を継続し、交通事故防止へつなげる。
第3四半期	①防犯、交通安全の注意喚起については、随時実施する。 ②交通安全教室等については、継続して行うことが、交通事故防止へつながると考える。 刑法犯の発生件数は、84件(11月末)対前年比 増3件となり、今年度の目標値に達してしまった。 交通事故発生件数は、19件(11月末)対前年比 増3件となっている。 運転免許の自主返納事業については、交通インフラが良くないため、返納したがない人が多いが、17名(12月末)対前年比増7名となった。 ③防災訓練については、毎年少しづつ訓練項目を変更しているが大筋ではマンネリ化しているため、内容の改善が必要であると考え。	・引き続き防犯及び交通安全の注意喚起を実施するとともに交通安全教室を行う。
第4四半期	① 防犯、交通安全の注意喚起については、随時実施した。 ② 交通事故、防犯件数について 交通事故(1-12)は、23件となり前年比 7件増となり上半期は1.5件/月、下半期は2.3件/月と事故が増加した。 中学生までの事故については、車に同乗しているときの事故発生はあるが、被害者になっているケースはない。 防犯件数(1-12)は、88件となり前年比 △6件 となった。 運転免許の自主返納は、33名となり前年比 16名増となったが、引き続き警察と連携して行く。 ④ 芦沼・風戸の防災組織に防災資機材購入の補助を行った。	① 防犯については、適宜、防災無線等を活用し注意喚起を実施する。 ② 交通教育指導員による交通安全教室は、継続して実施する。 益子町における交通事故発生時間帯は、夕方からの時間帯に多く発生しているため、来年度は時間帯の注意喚起を実施する。 ④ 自主防災組織については、2つの組織化を実施する。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降への方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	交通事故・防犯関係について、防災無線・メール等により随時の啓発を継続する。 また、子どもたちの安全を確保するため各課・関係機関と連携し実施していく。 H30年度も自主防災組織の支援を実施する。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	交通事故・防犯関係について、防災無線・メール等により随時の啓発を継続する。 また、子どもたちの安全を確保するため各課・関係機関と連携し実施していく。
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	健康福祉課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	地域の安全・安心体制の強化		
施策	防犯・防災体制、交通安全対策の充実	進捗状況	100%		
KPI	刑法犯発生件数（暦年：1～12月）	本年度目標値	69件	現状値	88件
KPI	交通事故発生件数（人身 暦年1～12月）	本年度目標値	20件	現状値	23件
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主 な 取 組 内 容	4月	②民生委員・児童委員への安全・安心に関わる情報の提供		特になし	
	5月			特になし	
	6月			②高齢者の消費者被害に関するセミナー受講(6/16 受講者44人)	
	7月	②民生委員・児童委員への安全・安心に関わる情報の提供		特になし	
	8月			特になし	
	9月			特になし	
	10月	②民生委員・児童委員への安全・安心に関わる情報の提供		特になし	
	11月			特になし	
	12月			民生委員児童委員協議会懇談会（12/20）	
	1月	②民生委員・児童委員への安全・安心に関わる情報の提供		特になし	
	2月			特になし	
	3月			民生委員児童委員協議会懇談会（3/28）	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	②6月16日の研修は曖昧な知識の整理ができ大変有意義だった。	②情報の共有と対処法を探るためにも民生委員同士の意見交換の場も必要。懇談会の時間を設けることも検討する。
第2四半期	②今後も連携を保つ。	②民生委員同士の意見交換のため懇談会を設ける。
第3四半期	②今後も連携を保つ。	②民生委員同士の意見交換を行う。
第4四半期	②今後も連携を保つ。	②民生委員同士の意見交換を行う。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	②引き続き連携を図っていく。
	第2四半期		
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	引き続き民生委員・児童委員協議会にご協力いただく。
	総括（第4四半期も含む）		

		課局名	建設課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	地域の安全・安心体制の強化		
施策	防犯・防災体制、交通安全対策の充実	進捗状況			
KPI	刑法犯発生件数（暦年：1～12月）	本年度目標値	69件	現状値	88件
KPI	交通事故発生件数（人身 暦年1～12月）	本年度目標値	20件	現状値	23件
KPI		本年度目標値			
		①年間計画（スケジュール・工程）		②実施内容・実績・成果	
主 な 取 組 内 容	4月			④補助事業交付申請ヒアリング（4/19）	
	5月	④通学路の危険箇所を点検・整備し、交通事故防止に努める。		④今年度事業について真岡土木事務所との意見交換会実施（5/18）	
	6月			④町道284号西浦線歩道設置工事説明会実施（6/13）、県土整備委員会現地調査実施（6/21）	
	7月			④栃木県選出国会議員への要望活動（7/11）、国土交通省への要望活動参加（7/14）、町道4号歩道整備工事開始	
	8月	④通学路の危険箇所を点検・整備し、交通事故防止に努める。		④国道121号改良促進期成同盟会幹事会出席（8/25）、「とちぎの道」道路の現場検証実施（8/31）、町道4号用地交渉（8/22）	
	9月			④9/1、6、12町道4号用地交渉、町道4号交差点真岡警察署との協議（9/19）、町道284号歩道整備工事施工業者決定	
	10月			④安全安心の道づくり県民大会出席（10/2）、町道4号・真岡土木との交差点協議（10/12）、長堤西工区歩道設置工事説明会出席（10/24）、町道4号用地交渉（10/27、11/10）、町道284号工事打合せ	
	11月	④通学路の危険箇所を点検・整備し、交通事故防止に努める。		④町道4号工事打合せ（11/7、10、15、24）、町道284号工事打合せ（11/8）	
	12月			④道路事業ヒアリング（12/1）、通学路安全対策協議会出席（12/21）	
	1月			④区画線設置工事完了、町道4号警察との交差点協議。（1/24）	
	2月	④通学路の危険箇所を点検・整備し、交通事故防止に努める。		④県道西小碓真岡線境界確認参加。（2/1）	
	3月			④県道益子公園線整備打合せ（3/14）	

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	④県土整備に対し、真岡土木事務と意見交換会を実施した。今年度の事業及び今後の事業について意見交換した。県土整備委員会現地調査を実施し、早期着手に向けて必要な準備を進めて要望した。 町道284号線西浦線については、公共下水道汚水管埋設工事を伴うため、発注時期等の調整が必要となる。	④都市計画道路益子公園線については、大まかには同意を得られているが、今後現地調査及び実施計画、説明会などを進めていき、全員の地権者の意向等を確認する必要がある。 町道284号西浦線歩道設置工事については、下水道汚水管埋設工事を先行して実施し、引き続き歩道設置工事を実施する。
第2四半期	④町道4号栗崎道祖土線、町道284号西浦線の歩道整備工事を開始	④町道4号栗崎道祖土線については、用地交渉がまとまったので物件等の移動について早期に実施できるよう調整する。 町道284号西浦線については、下水道工事との調整を図りながら工事を進めていく。 「とちぎの道」道路の現場検証で出された意見等を、今後の国県等への要望活動に活かしていく。
第3四半期	④県道西小埜真岡線歩道整備工事説明会に出席。関係地権者の意向を確認することができた。	④県道西小埜真岡線歩道整備工事については、事業主体は真岡土木事務所であるが、関係地権者との調整等があることから町からも参加する。
第4四半期	④町道4号栗崎道祖土線、町道284号西浦線については、占用物件の移転に時間を要したため繰越になってしまった。	④町道4号、284号については、早期完了に勤める。町道4号においては、繰越工事完了後、速やかに舗装工事を行い最終完了を目指す。また、通学路安全対策協議会で出された危険箇所について検討し、改良の必要な路線を選定し、計画を立てていく。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降への方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	④歩道整備工事については、関係者等と調整しながら工事を進めていく。
	第2四半期	②意見・提言 道路の改善により安全性が高まりスクールガードの必要性がなくなり、他のところをガードできるのであれば、優先的に道路改良（車道・歩道の分離等）に取り組んでいただきたい。	
総括（下半期も含む）		委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	④県道西小崎真岡線歩道工事に関しては、県に進捗状況を確認しながら、協力していく。 線越事業の町道4号線栗崎道祖土線、町道284号西浦線の早期完了に努める。また、通学路の危険箇所について検討し、必要な路線を選定し、計画を立てていく。

		課局名	学校教育課		
基本目標	幸せを感じる暮らしをつくる	政策	地域の安全・安心体制の強化		
施策	防犯・防災体制、交通安全対策の充実	進捗状況	100%		
KPI	刑法犯発生件数（暦年：1～12月）	本年度目標値	69件	現状値	88件
KPI	交通事故発生件数（人身 暦年1～12月）	本年度目標値	20件	現状値	23件
KPI		本年度目標値		現状値	
		①年間計画（スケジュール・工程）			
		②実施内容・実績・成果			
主な 取組 内容	4月	②スクールガード・リーダー委嘱状交付 ②毎月、スクールガード・リーダーより活動報告書の提出・確認 ②各小中学校へスクールガード名簿提出依頼 ②スクールガード・リーダー連絡協議会・育成講習会の出席者確認報告 後日資料をスクールガードへ情報提供配布。			
	5月	②平成28年度地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費補助金交付申請 ②平成28年度地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費補助金請求・確定・入金 ②スクールガード・スクールガード・リーダーボランティア保険加入処理 ②スクールガード・スクールガード・リーダーボランティア保険料支払い			
	6月	②4/4 スクールガード・リーダー委嘱状交付、スクールガード名簿受理 ②4/20 スクールガード・リーダー連絡協議会・育成講習会出席者報告 ②4/26 平成29年度地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費補助金交付申請 ②4/28 広報配布時各自治会回覧用にスクールガード募集案内チラシ回覧 ②春の全国交通安全運動広報用チラシ・ポスター、児童生徒の通学時の安全確保についての資料、自転車利用者に対する遵守広報資料を各小中学校配布			
	7月	②5/8 4月分スクールガード・リーダー活動報告書受理 ②5/15 スクールガードボランティア保険加入・支払処理 ②5/15 スクールガード・リーダー連絡協議会・育成講習会 ②5/30 平成28年度地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費補助金請求・確定・入金			
	8月	②6/6 ボランティア保険賠償責任保険証券受理 ②6/6 5月分スクールガード・リーダー活動報告書受理 ②6/19 平成29年度交通安全ファミリー作文コンクール募集案内周知			
	9月	②7/3 第14回小学生防災探検隊マップコンクール周知 ②7/3 犯罪被害者等に関する標語募集への協力依頼周知 ②7/3 平成30年度使用交通安全スローガン応募協力周知 ②7/4 6月分スクールガード・リーダー活動報告書受理 ②7月 広報誌「交通安全とちぎ」万引犯罪防止壁新聞「平成29年度文科省交通安全業務計画」案内配布			
	10月	②8/2 7月分スクールガード・リーダー活動報告書受理 ②8/10 「安全で安心なまちづくり地域交流会」開催通知周知 ②8/17 小学校へ「とちぎ防災ハンドブック2017」配布 ②8月 各小中へ地域安全運動防犯ポスター、地域安全マップ募集周知			
	11月	②9/4 8月分スクールガード・リーダー活動報告書受理 ②9/11 秋の全国交通安全運動の実施について各小中へ周知 ②9/13 H30地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業実施調査回答報告 ②9/30 安全で安心なまちづくり地域交流会への参加（SGL）			
	12月	②10/4 9月分スクールガード・リーダー活動報告書受理 ②10/17 各小中へH29年末交通安全県民総ぐるみ運動実施案内配布			
	1月	②11/1 益子西小防災訓練にSGL参加 ②11/7 10月分スクールガード・リーダー活動報告書受理 ②11/9 各小中へ交通死亡事故多発「真岡地区」警報の発令通知配布。 ②11/14 各中学校へ犯罪被害者週間広報ポスター送付 ②11/17 各小中学校へ「年末交通安全県民総ぐるみ運動」広報書類一式送付			
	2月	②12月～益子西小にてスクールガード1名新規追加加入 ②12/11 11月分スクールガード・リーダー活動報告書受理 ②12/8 各小中学校へ交通安全広報ポスター配布 ②12/21 益子町通学路安全対策推進協議会開催。通学路の危険箇所の合同点検実施。また前年度の対策実施後の効果把握。			
	3月	②1/9 12月分スクールガード・リーダー活動報告書受理 ②1/10 益子町通学路安全対策推進協議会 平成29年度対策一覧表・対策箇所図を公表、関係機関で認識共有。 ②1/11 各小中へ交通死亡事故多発「真岡地区」警報発令通知配布 ②1/15 七井小学校へ通学路注意反射板購入・配布 ②1/19第58回交通安全国民運動中央大会「交通安全優良学校」益子小受賞 ②1/24 各小学校1日入学時、保護者へスクールガード募集案内通知配布依頼			
		②2/1 校長会にてH30自転車シミュレーターを使用した交通安全教室周知 ②2/9 各小中宛年度末始の交通安全指導及び事故防止周知 ②2/13 各小中宛「春の全国交通安全運動」広報チラシ配布 ②2/23 スクールガード装備品（信号灯）購入配布。1月分活動報告受理。 ②2/26 各小中宛「通学路の交通安全の確保の徹底について」周知 ②2/28 スクールガード・リーダーへ謝金支払処理			
		②3/1 2月分スクールガード・リーダー活動報告書受理 ②3/1 各小中学校へ「春の全国交通安全運動」ポスター、要領配布 ②「広報ましこ（おしらせ版）」にて、スクールガード募集案内周知 ②3/5 各小中学校へH30栃木県交通安全県民運動計画配布 ②3/9 平成29年度地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費補助金実績報告提出			

	③担当課の点検・検証 ②を踏まえ、取組の必要性、効率性、有効性、改善点などを洗い出し、現時点の課題整理まで行う。	④次期四半期(第4四半期は、次年度) 以降の課題への方針・改善点
第1四半期	②4月20日に平成29年度のスクールガード名簿を提出してもらい、人数把握をした所、今年度は75名であった。(昨年度より3名減少) 平成28年度 78名 平成27年度 87名 平成26年度 84名 平成25年度 86名 平成24年度 84名 平成23年度 80名 平成28年度のスクールガード平均年齢は63歳である。 平成29年度のスクールガード平均年齢は65歳である。 (昨年度より更に2歳高齢化。全体における最高齢は83歳。) これらの結果から、昨年度以上に益々、【スクールガードの新規加入者の減少、高齢化】という課題が確認できる。	②【スクールガードの新規加入者の減少、高齢化】という課題を解決するため、募集案内の周知・新規登録者確保に取り組む。 平成27年まではボランティアということもあり、本人からの希望登録のみで募集案内等は何もしていなかった。 そこで、平成29年2月14、15日の益子町内小学校1日入学時、保護者へ新規スクールガード募集案内通知配布を実施。 平成29年4月30日の広報配布時、全戸回覧形式(回覧数747)にて、新規スクールガード募集案内通知配布を実施。 過去の傾向を見てみると、孫が新1年生でスクールガードに加入する方が多い。よって今年度も小学校1日入学児に全保護者宛に新規募集案内通知を配布予定。 更に今年から、「広報ましこ(お知らせ版)」に募集案内掲載予定。
第2四半期	②平成29年度益子町通学路安全対策推進協議会の開催(12月21日開催予定)にあたり、9月中旬に益子町立各小学校中学校、スクールガードリーダー・益子町PTA連絡協議会、益子町交通指導員等に通学路の点検を行ってもらい、新たな危険箇所の申請依頼をした。 結果、今年度は4カ所の新規危険箇所申請があった。 12月21日の合同点検にて現場視察及び対策方法を協議予定。	②益子町通学路安全対策推進協議会の開催前の危険箇所申請依頼は例年実施しているが、危険箇所申請は随時ある。 申請があった場合は、その都度、現場確認に行っている。(6件)町道の場合、建設課相談ですぐに対応出来た件もあったので、今後も申請があった場合はその都度確認する方針で対応したい。
第3四半期	②12月21日、平成29年度益子町通学路安全対策推進協議会を実施(平成26年度から開始し、今回で4回目となる) 真岡土木事務所、真岡警察、各小中学校通学路担当教諭、スクールガードリーダー、益子町PTA連絡協議会、益子町交通指導員、益子町建設課、益子町総務課、益子町学校教育課メンバーで今年度新たに申請のあった通学路危険箇所の現場視察を実施した。 (益子地区2カ所、七井地区1カ所の計3カ所。申請箇所は4箇所であったが、そのうち既に1カ所は昨年度視察し今年度対策予定地であったため、申請者へ事前説明) その後、事業主体を中心に対策内容を協議。翌月1月に公表予定。 また、現場視察後、昨年度までに視察・対策検討済みの29カ所について、事業主体ごとに現時点での対策進捗状況報告を行い情報共有ができた。	②平成29年度益子町通学路安全対策推進協議会の通学路危険箇所視察時において、各小中学校通学路担当教諭、スクールガードリーダー、益子町交通指導員の方々による現場説明は大変役に立ち、通学時の現状詳細を十分に把握することができた。 次期四半期には各小学校の1日入学説明会があるので、スクールガードの勧誘チラシの作成、配布を実施し、新規スクールガード確保に務めたい。
第4四半期	②2月中旬の各小学校1日入学説明会時に、新規スクールガードの勧誘チラシ配布を実施。ボランティアのため報酬等は支払えないが、新規加入するための動機理由を増加させる必要性があった。	②その必要性をふまえ、次年度からはスクールガード加入登録時に、「益子町健幸ポイント」を100ポイント付与する。またポイント制度加入の際にウォーキング記録票を配布し、スクールガード中のコソコソウォーキングポイントも随時追加付与可能とする。これらが新規加入動機要因のひとつとなり、次年度のスクールガード登録数の増加を期待したい。

		⑤外部評価委員会からの意見・提言	⑥外部評価委員会・議会からの意見・提言を受けての次半期（下半期は、次年度）以降の方針・改善点
上半期	第1四半期	委員の検証及び意見・提言 ①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし	例年各小中学校の通学路担当教員から危険箇所申請を提出してもらっている。 危険箇所申請の際や、通学路安全対策協議会開催後の危険箇所現場対策一覧等公表の際に、教員だけではなく子どもたちへも情報提供し、一緒に考えることを提案し、子どもたち自身の安全に対する意識向上に働きかけたい。
	第2四半期	②意見・提言 危険箇所申請に関連し、子どもたちも一緒に考えることで、自身の安全に対する意識が向上し、また減少しているスクールガードの有効的な配置が期待できるのではないか。	
総括（下半期も含む）	第3四半期	委員の検証及び意見・提言	平成29年度は、「新1年生の保護者・祖父母宛の募集通知配布」、「広報ましこへの募集広告を掲載」等による新規登録者募集に力を入れた。次年度も引き続き周知していきたい。 また、平成30年度からはスクールガードの加入・活動が【益子町健康ポイント】対象事業として認定となるので、この件も広く周知に努める予定である。
	総括（第4四半期も含む）	①継続性について このまま継続・・・5委員 改善・見直し・・・なし 廃止・終了・・・なし ②意見・提言 実施計画に沿い各課連携を図られ実行されたい。	